京城日報

本紙定價　一箇月金七十五錢
發行所　京城太平通二丁目　合資會社京城日報社
印刷人　小川三之介

十二月二十七日夕刊（朝夕併せて八頁）

◇派遣軍引揚
＝近々準備に著手＝

目下極東三州に分屯して同方面の露國軍に支援を與へ守備の任に膺りつゝある我軍は浦鹽方面より策動せる第十二師團及び滿洲里方面より策應せる第三師團なるが此兩師團は完全なる動員部隊にして多數の豫後備兵と若干の後方勤務部隊を含めるが最近國策の關係と守備勤務の狀態等より略ぼ豫後備の大部及び特種部隊を內地に歸還せしむるに決せるが近く其準備に著手すべしと（東京電話）

◇米大統領動靜

巴里來電＝ウイルソン氏は二十四日夜巴里出發フデヨンに到り同地に於て各將卒とクリスマスの晩餐の卓を共にしたる後パーシング將軍の正式晩餐會に列席して一場の演說を爲し翌日巴里に歸還其翌朝再び巴里出發海峽の彼岸に達し倫敦に赴き三十一日更に巴里に向け倫敦を出發する筈なりと（東京特電）

◇塞攝政公巴里訪問延期

巴里來電＝ベルグラード來電に曰く塞耳維攝政公の巴里訪問は來年一月迄延期せらるべしと豫想せらる（東京特電）

◇ヘーグ元帥ドーバー著

ヘーグ元帥は倫敦に向ふ途中ドーバー（英南部港）に到著し海陸軍の盛んなる歡迎を受けたり（倫敦電報）

◇イストリア形勢重大

華盛頓來電＝ヘルシングフオルスより國務省に達したる報告に依れば過激派は優勢なる軍隊を有しイストラリの形勢は重大なり（東京特電）

▲附記　イストリアは墺太利の西南山地アドリア海の東北隅に位する地方なり

◇獨飛行機擊滅數

華盛頓來電＝ハーボート少將は陸軍省に報告して曰く佛に於ける米國の航空隊は獨逸飛行機八百五十四氣球八十三を射落し是に對し米國の損害は飛行機二百七十一氣球三十五なり（東京特電）

◇過激派軍隊進軍

露西亞過激派軍隊は獨逸軍の退却線を脅威しつゝ波羅的沿海州に進軍したりとの報あり（倫敦電報）

◇南方出兵不法論駁

南方は徐總統に對し陝西福建の出兵不法を論駁し同時に唐紹儀氏と上海にて出兵問題を完全に解決し然る後上海にて和議に著手すべしと報せり（上海特電）

◇北方和議代表派遣

北方議和代表者は二十九日北京發南京に向ふべし北方が斯く速かに代表者を派遣するは福建陝西問題に依り其の誠意を疑はるゝを懼るゝより和平希望の切なるを示す爲めなりと（北京電）

◇四省聯合會組織

福建陝西湖北湖南四省議員等は廣東にて會議を開き四省聯合會を組織し各省より二名の代表者を選び外交團北方政府其他に對し尙ほ北方が四省出兵を中止せざる限り議和に應ぜざる由を聲明せり（上海特電）

◇對露條約廢棄か

曩に露國は支那と數箇の條約を締結し之に依り外蒙古北支那に於て特殊政治的及び經濟的利權を獲得せるが支那は間も無く右諸條約を廢棄すべしと解せらる（華盛頓電報）

◇觀兵式擧行仰出

天皇陛下には來る一月八日陸軍始めに就き午前十時御出門宮城前外苑へ臨御觀兵式を行はせらるべき旨廿六日仰せ出だされたり但雨天の節は臨御あらせられずと（東京特電）

◇遣英宮ホノルル御著

東伏見宮殿下には二十七日ホノルル御到著の御豫定なり（ホノルル電報）

◇聖上御風氣

宮內省二十七日發表＝天皇陛下には二十七日帝國議會開院式を行はせらるゝに就き貴族院へ行幸あらせらるべき筈の處御風氣に依り行幸あらせられざる旨仰出だされたり（東京特電）

◇松方侯參內

松方內大臣は廿六日午前十時三十分宮中に參內　兩陛下の御機嫌を奉伺し退出後內大臣府に出仕の上諸般の事務を見たり（東京特電）

◇兩相御禮言上

原首相は＝橋文相同伴二十六日午前十一時參內し天皇陛下に拜謁仰付けられ高等教育資金御下賜の御禮を言上せり（東京特電）

◇西園寺侯隨員任命

二十六日西園寺侯歐洲出張隨行左の如く任命ありたり（東京特電）

東京帝大教授醫學博士　三浦謹之助
宮內省式部官　西園寺八郎
公爵　近衞文麿
松岡新一郎
侯爵西園寺公望歐洲へ出張に就き隨行被仰付

◇貴族院各派交渉會

二十六日午後一時より研究會事務所にて貴族院各派交渉會を開き全院委員長常任委員長選擧に關し協議し例に依り召集日現在の各派所屬議員數を比例し按分比例を以て選出する事とし候補者を定め同五時過ぎ散會せり（東京特電）

◇貴族院所屬議員

貴族院各派所屬議員數左の如し（東京特電）

▲研究會百十八名▲茶話會六十八名▲無所屬六十名▲交友俱樂部三十五名▲土曜會二十九名▲甲寅俱樂部十七名

◇德川議長招宴

德川貴族院議長は恒例に依り二十六日午後六時官舍に大岡、濱田衆議院正副議長、寺田書記官長以下各書記官を招待し晩餐會を催し同八時散會せり（東京特電）

◇新貴族院議員

廿六日左の通り辭令あり（東京電）

勅選　貴族院令第一條第五項に依り貴族院議員に任ず　勳四等　大坂金助

◇園侯事務閲覽

西園寺侯は廿六日午前十時より永田町首相官邸內講和委員事務所に赴き秋月佐都夫高橋幹長西園寺八郎氏等と共に事務を閲覽せり（東京特電）

◇次官政務打合

二十六日は次官會議定例日に付き幣原外務次官以下各省次官內閣に參集各省政務の打合せを爲し正午散會せり（東京特電）

◇憲政々務總會

憲政會にては二十六日午後二時より本部に於て政務調査總會を開きたり（東京電）

◇東拓總裁滿期
重任辭令發表か

東洋拓殖會社總裁石塚英藏氏の任期は二十七日を以て滿了二十八日內閣より辭令發表さるべし（東京特電）

○政務總監歸省

山縣政務總監は年末年始の休暇を利用し墓參の爲め廿九日午前八時四十分南大門驛發列車にて郷里萩に歸省すべく一月五日頃歸任の筈にて年末年始の禮は受けざる由

○會計事務改正

總督府並に所屬官署を通じ現行の會計事務章定中不便なる點を改正し大正八年一月一日より施行さるべき旨廿八日訓令を以て發布さる

○憲兵隊會計事務手續制定

今回警察署の事務を取扱ふ憲兵分遣所及び同分遣所に於ける會計事務取扱手續を制定し二十八日訓令を以て發布大正八年一月一日より施行さるべし

○總督府御用納式

總督府に於ける御用納め式は二十八日午前十一時三十分第一會議室に於て長谷川總督山縣政務總監を始め各高等官以上全部參集擧式の筈なるが判任官以下は各部局毎に局長室に於て夫々擧式すべしと

▲御用始　總督府に於ける來年御用始式は一月四日午前十時第一會議室に於いて長谷川總督を始め高等官一同參集官吏服務規律の朗讀ありて式を終る筈

▲軍御用納　二十八日は御用納めに付朝鮮軍司令部にては午前十時三十分將校を高等官食堂に集め宇都宮軍司令官より御用納に關する一場の挨拶をなす由

○南大門驛新營案決定
二百二十萬圓の建造費
川江京管工務課長談

鐵道局並に滿鐵京城管理局にて計畫中なりし南大門停車場の新築案は愈々出來せりとて川江滿鐵京管工務課長は曰く

▲新營計畫　南大門驛の新築に就ては各方面の希望も出で又諸種の例を參酌する必要あり久しく研究を續けたりしが今回愈々確定公表し得るに至れり著手は大正八年より三箇年の繼續事業とすべく又經費は本館並別館の建築費約九十萬圓を投じその他の土地買收費の旭川の附替へ停車場構內各種施設に百四十萬圓を要し合計二百三十萬圓の豫算なり

▽新驛の內部　新驛は二階作り並に地下室に分れ其位置は大體に於て現停車場を中心とし然し乍ら其建物は若干方向を改め客の入口は南大門通りを一直線に迎へ得る事とし中居の建物內に入れば廣大の場內を置き正面を出札口とす又左側に一等待合室を各別に設くる五十坪餘を設置し右側は丙二等の三等待合室を設くべし而して荷物の預託所は停車場の入口出札所に面すべし二階は食堂地下室は料理室材料置場倉庫となし一二等待合室の左側に驛長室その他の事務室を設くべく貴賓室は驛舍の最も左端に置く事となれり

▲新驛の周圍　本館の向つて右側に若干の距離を置きて小荷物の取扱所を新設すべく本館と別館の間に集札口を設くる事となる又改札口は各等待合室並にホールの間に多數を置くべし更にプラットホームより直ちに列車に昇降し得るものは別途線路を隔てゝ先方に特設しあるプラットホームとの間の連絡は目下跨線橋に依り居れるも新停車場は地下道となす設計なり

▲大貨物取扱所　大貨物取扱所は蓬萊町方面乃ち新停車場の向つて斜右方に移すべく京城稅關出張所も現在の位置より貨物取扱所の隣接地に移轉すべし而して京城市中を稅關出張所並に大貨物取扱所間の連絡は土木局にて適當の道路を新開する事となるべし又現在停車場の向ふ側を流れ居る旭川は新停車場の構內となるを以て附替を行ふ筈なり

▲七百坪の建築　新停車場の構內は坪數約七萬坪となり從來の二萬坪に比し三倍の廣さを占むべし工事は直營並に受負の二方面をとる事となるべく極力その竣工を急ぐ筈なれど先づ大正十年に至らざれば竣工を見ざるべきか尙ほ新驛の建坪は約六百六十坪を有し京城の停車場としては寧ろ大に過ぎざるやの觀さへあり

▲假停車場位置　南大門停車場の新營に伴ひ現在の停車場は新停車場の一部となるを以て新營出來まで他に假停車場を設くる必要あるが該假停車場は現在稅關出張所の方面に特設さるゝ事となるべし又現稅關出張所及び大貨物取扱所の移轉後は稅關倉庫等を取り拂ひ古市町通りを擴大して一般の交通に便ずべき計畫なりと

○歳末金融概況
總督府度支部調査

歐洲戰局は本年に入り米國參戰の進展に伴れて愈々擴大し各國戰時經濟政策に基づく貿易上直接間接の障害を續出し船腹の不足運賃の昂騰益々甚だしく西伯利出兵に伴ふ鐵道の特別輸送と相俟つて貨物の搬出を妨げ物價の昂騰は殆んど其の極に達したるが其の間講和氣分は漸次濃厚の度を加へ遂に休戰條約の成立を告ぐるや時局關係品の暴落を演出する等財界は波瀾の觀を呈せしが朝鮮に於ては生產物の大宗たる米穀を始め棉花水產物等孰れも暴騰して輸移出

▲貿易の活躍

となり一方移入に在りても地方購買力の增進に伴ひ一般に好況を呈したるを以て本年十二月上半月迄の貿易額は二億八千八百萬圓の巨額に達し前年同期に比し實に一億一千萬圓の激增を告げ事業界の好況內地資本の流入等と共に朝鮮經濟界の發展著しきものあり隨つて金融界亦異常の膨脹を遂げ本年一月以降十一月迄の手形交換高は三億五千二百萬圓にして前年同期に倍加し十一月末現在各種銀行の預金は七千四百餘萬圓にして前年同期に比し二千百餘萬圓貸出金は一億一千七百餘萬圓にして

▲四千三百餘

萬圓の何れも增加を示し朝鮮銀行券發行高は滿洲に於ける發行增加と西伯利出兵に伴ふ發行增加もあり十二月廿日現在一億三百餘萬圓に達し之を前年末に比すれば三千五百餘萬圓の膨脹にして制限外の發行五百萬圓を示せり依つて京城に於ける歳晩財況を觀察するに本年の米價は概して良好を傳へられ而も米價は內地の減收を受けて收穫期に入るも依然として高値を持し之が買付資金の需要少からざるのみならず米豆の出廻りに伴ふ地方購買力の增加は延いて

▲輸移入品の

荷動を促し市中の景氣良好にして此方面の金融の需要亦少からず金融漸次繁忙に向ひつゝあるも夏季以來當業者一般講和に對する警戒を怠らざりし結果休戰に伴ふ一部商品の崩落も格別の影響を惹起せず銀行業者亦財界の趨勢に鑑み預金貸出利率の引上を斷行する等終始堅實の態度を取り講和と歳末資金需要に備ふる所あり旁今後決濟資金の需要增加に連れ金融一層繁忙の度を加ふべしと雖も大勢

▲平靜の裡に

越年するを得べきが如し而して十二月十五日現在市中各銀行の預金は四千萬圓貸出金は三千八百餘萬圓にして前年同期に比し預金九百餘萬圓貸出金八百餘萬圓の孰れも增加を示せり

○定例長官會議

本年最終の定例長官會議は二十七日午前十時より總督府第一會議室に於て開會長谷川總督山縣政務總監を始め各部長官局長並に所屬官署長等參集諸般政務に就き審議する處ありたり

○米價新調節策
麥雜穀關稅撤廢も提案

▲外米再び管理　米價調節に關する現內閣の方針は之を自然的の狀況に放任し隨つて米穀管理を廢止すると同時に外國米の輸入關稅を撤廢して自由流入の方針に出でたるが一面に於ては西貢其他の外米產地に於ける輸出禁止の事情が現內閣成立當時に比して著しく變化し來り最近西貢の如きは明年よりは政府筋の註文にあらざる限り輸出許可を與へざることとしこの情報到著し居る程なれば政府管理の下に置き先づ政府の名を以て各地に於て必要數量の買付を行ひ而して之を輸入希望の當業者に分割し買取らしめ時價を以て販賣せしむるの外急激なる米價變動の爲めに當業者の損失を生ずるが如きことある場合には該損害額だけを政府に於て補償するの途を立て當業者をして安心して外米輸入に從事せしむるの方法を講ずべく閣議の決定を見たる模樣なり

▲雜穀關稅撤廢　麥其他雜穀の輸入關稅撤廢問題に關しては農商務省は先般來穩々考慮研究の上愈々之が撤廢する案を立て大藏省とも協議中なるが這は外米の關稅撤廢の如く爾く緊急避け難しと云ふ程のものにあらざるのみならず議會も愈々近く開會を見るに至るべきを以て之が廢止は緊急勅令に據らず議會開會の劈頭に提案して其協贊を求むる手筈にして之が輸出をも制限して國內の供給を豐富ならしむべしと

▲外米受渡代用　米價調節の一助として外國米を取引所の受渡米代用として使用せしむるの件に付いては山本農相は就任當初より種々研究し居る所にして隨つて之を實行して相當の效果を收め得べき見込充分なるに於いては假令取引所側の反對あるも敢然之を斷行するに躊躇せざる所存なるも內地米の先物三十八圓內外に對し外國米は目下西貢上等にて一石三十四圓五十錢見當の唱へにて內地米との價格差が僅少なれば之を受渡米代用として使用せしむるも格付等の關係上殆んど其の效果なかるべく農商務省にては今の所之が實行を見合せ居る次第なるも今後の狀況に應じ何時之を實施するに至るやも測り難しと云ふ（京電）

○牛毛織特許

曩に朝鮮皮革會社に於て牛皮の洗滌に成功し中央試驗場にて苦心の結果牛毛織を案出して朝鮮皮革會社に製織を認可されし所謂高麗毛織は此般來中央試驗場にて農商務省に實用新案特許を出願中なりしが最近牛毛利用として特許の指令あり朝鮮工業界の一進步として特筆に値すべし尙ほ同毛織の利用は從來の服地外套類の外朝鮮人の周衣並に內地商人の原司にも需要を見出し來れりと

○京畿地方費豫算

京畿道管內大正八年度地方費豫算は道地方係りに於て目下編成中なるが豫算總額は前年度と大差なきもの、如く新事業と認むべきは原蠶種檢查及び開城に商業學校を設くるの二項に過ぎざるが如しと

○城山浦學校組合

全羅南道城山浦學校組合設置の件は山崎松外六名よりの申請に係る豫て當局に於て詮議中の處二十六日附を以て許可の指令ありたり

○小學校新設

平安南道平原郡順安面郡上里に十二月二十五日より順安公立尋常小學校設置の件總督より認可されたり

○大正親睦會總會

大正親睦會にては二十六日午後三時中央青年會館に於て總會を開き王世子殿下御婚禮奉祝聞を組織し殿下御來鮮の時期迄に官民合同の提燈行列其他奉祝の催しに就き協議決定する所ありたり

○葉恭綽氏入京

支那前交通次長葉恭綽氏は二十七日午前十時南大門驛著釜山行列車にて入京、久水外事課長代理支那領事館員等多數の出迎ひを受け一先づ朝鮮ホテルに入れり

○艦隊乘員見學

仁川入港中の吾妻、常磐兩艦乘組將校十五名、下士卒二百八十九名は二十七日午前九時二十分入京市內各所を見學せり

○愛婦の艦員接待

愛國婦人會朝鮮本部にては練習艦隊乘組下士卒が昨今兩日吾妻常磐乘組下士卒五百名宛入京に對し歡迎の爲め昌德宮庭園に接待所を設け茶菓煙草の接待を爲したり

○波多野氏通過

三井合名の波多野承五郎氏は二十七日朝釜山上陸北行せり（釜山特電）

撫順より
大町桂月

拜啓本日撫順へ參り大山坑の千二百四十尺の底へ、エレベーターにて四十秒を以て直下致し候、地獄とは思ひの外、年が年中八十度の常溫度風絕えず吹く仕掛にて實に浮世の外の春の心地いたし候

千尺の坑や常世の春の風

これより三塊石山の戰蹟を尋ね東陵に詣で然る後奉天を切り上げ、本溪湖、安東五龍背溫泉へ立寄りて鄕地に參り申候頓首（十二月廿四日）

人事消息

▲小橋一太氏（農商務省參事官）二十七日朝入京山本へ
▲工藤總務課長　服忌引籠中の氏は三十日朝京城出發約三週間の豫定を以て故鄕の遺骨埋葬家事整理の爲め鄕里岡山縣淺口郡三和町に歸省の筈
▲佐藤朝鮮氏（朝鮮軌道重役）同社事務に關し二十六日入京總督府に出頭したるが即日歸京したり
▲島田吉郎氏　武官用務を帶び東上中なりし氏は二十七日午前九時二十五分の著列車にて歸京

八面鋒

◇釜山の小學校教員のストライキが、多少誇大に報ぜられしことは、別項所揭の通りなるが、而も此不心得なる行動が五校に亘りて現はれたるは掩ふべからざるの事實なるが如し。特に其の動機が年末賞與の上に在りこいふに至りては吾人唖然として言ふ所を知らず。

◇賞與の公平を得ざる、之れを事實なりとせば、其の調査を爲したる者、並に監督の地位に在るものが責なしといふべからず。然れども其の非違を正すには自ら其道あるべきなり。ストライキ的の行動を以て、威嚇を試むるに至りては、眞に教育界の面汚しといはざるべからず。

◇吾人は初め此報に接し、其原因の在る所、必ず容易ならざる教育問題なるべく推測し、多少の同情を以て彼等に對し、取り敢ず其の行動の不穩なるを注意し置きたるが、此の想像は全く的を外れ、案外千萬にも陋劣至極なる動機に出でたりとせば、吾人は今や正義の尺を揮つて彼等に臨まざるを得ざる場合と爲れり。

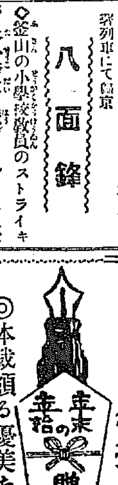
◇晩近國民の思想が動もすれば動搖し、憂ふべき傾向の上に在るに際し、ヨモヤと思ひたる小學教員まで職工勞働者の下司根性に化したるは、返す〴〵も遺憾なり。監督官廳たるもの、此際一刀兩斷に禍根を絕滅せざるべからず。

▲薪炭　山成德用品
▲新明太子　樽入り內地土產
▲石油各油　卸小賣
貿易雜貨商　京城本町三丁目　藤富國太郎商店
電話長三〇八番　一九〇二番　振替京城一七〇八番　電略（ク）又（フ）

銘酒

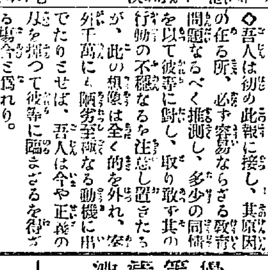
金釜　銀釜　菊正宗　楠正宗
特約店　三巴京城支店　電話三七八五〇三番

◎謹告
▲愈々寒氣が襲來しました
▲米價調節の聲は一轉して炭價調節の叫となつて居ります
▲如何にして寒氣を凌ぎ又何を以て炭價を調節するかが刻下焦眉の社會問題であります
▲弊店が採暖裝置として最も經濟的衞生的にして且便利なる宮崎式ペーチカを御推薦するのは獨り個人經濟の爲めのみではありません
京城府漢江通八番地　說明書贈呈
宮崎組　宮崎吉太郎
電話龍山五四二番　振替口座京城五四〇二番

年末年始の贈物に
アナタの好意を幾久しく記念する
パイン萬年筆を御撰び下さい


◎体裁頗る優美な化粧箱の用意有之候
割引特價　最新候出式五圓八十錢　同　金飾付七圓八十錢
インキ止式短軸四圓九十錢　同　實用向三圓八十錢
學生號二圓八十錢　ビジネスペン（普通）一圓九十五錢
鮮京城府　合資會社京城日報社代理部
電話六〇〇九番構內十八番　振替京城三〇〇〇番　電略（ケ）

諸物運搬　人夫供給　請負業　村上組
組長　村上喜代藏
事務所　龍山元町二丁目　電話四六六番

優等清酒

釀造元　福岡縣三井郡川村山　富安本店
發賣元　京城永樂町二丁目　富安京城支店
電話四〇三九番　振替口座四三九番
歳暮御斷り

カーバイド
並に各種ランプ及附屬品
出中カーバイド　鮮滿總代理店
京城南米倉町十七番地　山陽商會
電話一二九二　振替京城三貳番

大正七年七月一日改正現行

◎參天の椰子 ◇天日を覆ふ◇蝗の群れ、比律賓群島

獨立運動を始めた比律賓 彼等の文化は未だ醸成されて居ない

講和の影響を受けて小國獨立問題が其處彼處に湧いて來た、比律賓は獨立委員を米本國に派し委員長ケゾン氏一行はその途中長崎市に上陸して氣焔を擧げた、此の比律賓の風俗に就いて某南洋通は語る

『比律賓は議會政治で**上院議員**は八名内五名は比律賓人、下院は八十一名悉く比島から選出される、之れは米國政府が比律賓人の自由を尊重した施政方針を語るものだ、而して比島開發に米國が投ずる費用は萬般の施設悉く米國一流の大仕掛で素晴らしい額に上つてゐる、これ迄米國でも比島獨立論或は抛棄問題が屡起つた、併し未だ獨立は早過ぎる、日本から觀ると頗る興味ある島で同島を代表してゐるものは鬱蒼として參天する

椰子の林 であらう島民は日本人に酷似し先年鶴見祐輔氏が同島に遊んだ時或る和蘭人から『君は比律賓人か』と呼びかけられたさうだ、併し彼等は西班牙の治下で羅馬文明の惑化を享け雜婚して血を享け、基督教徒であつて我等は西洋人だと自覺してゐるらしく、日本よりは優等國だ位に自惚れてゐる、之れは無智な自貧心であるが日本人は記憶して置かねばならぬ、一方また彼等が國民的敎養を缺如してゐて若し米國を離れても眞乎の獨立は出來ない事も知つて置かねばなるまい、彼等は文化的に

借家住ゐ で彼等の文明は未だ醸成されてゐない、同じ南洋の瓜哇人の美術も東埔寨人の建築美術もない、名物には每日曜に鬪鷄が興行される『比律賓人が火事に逢つたら親より子より妻より何物より一番に鬪鷄を持つて出る』と云はれてゐる青年は此頃野球に向つたらしいマヨン山と稱ふ比島の富士の如き火山がある海拔八千尺、裾に椰子の林を繞らし全山の紫紅、青空に映發して美觀を極め

比島富士 の名がある、蝗が滿天地に棲息し田畑から舞上る時は天日を覆うて地暗しの概がある、ダバオには日本人村があつて千五百人栽業に從ひ比島全體には日本人が六千人ゐる、飄々として天に參する椰子樹一樹森を爲すナンコー樹、土人が洋傘の代用に被つて驟雨を避ける大きな芭蕉之れ等は四時一顆一二貫から四五貫匁の實を結む、熱帶の花卉は强い芳香を放散する、稻は二作、温泉地もあり住心地良き樂天地である、唯熱地の特色として

◎總督、昌德宮御訪問

御慶事經過言上

長谷川總督は二十七日午後二時半大島副官、藤波通譯官、神田秘書官等を隨へ昌德宮に李王同妃殿下を御訪問實政殿に於て歲末御挨拶申上げたる上王世子殿下の御慶事に關し種々言上する處あり同三時辭去したるが兩殿下とも御機嫌麗しかりしと

◎セミヨノフの爲めチタ市民 日參して……祈禱す

モリンスキー劇場に於て射擊されたるセミヨノフ將軍に對しては其後同情油然として集まりチタ市民中には寺院に日參して全癒を祈禱し居れるものあり又之れが爲め部下將卒の士氣大いに鼓舞されたりと（哈爾賓電報）

▽重態か 眞僞不明也

哈爾賓來電＝セミヨノフ將軍の負傷は輕微なりと傳へられたるが其後重態に陷れりとの風說あり但し眞僞不明也（哈電）

◎勇敢なる河内主計長 爆沈に際し帳簿に記入

德山灣にて爆沈せし軍艦河内の艦體は吳工廠の手にて解體に着手する事となり工廠技術官職工數百名出張し目下潜水夫をして艦内の設索中なるが屍體は今尙續々發見され、あるものは指罫の羅紗服のみ浮けし骨肉共に腐敗し恰も鮭の浮流せるが如く手を觸るれば直に融け

◇**臭氣甚し** 船内の重要物は殆ど引揚げたるが主計長室より金庫の無事なるを發見し之を引揚げたるに火藥の爲め焦げ居れるが之を開きたるに内部の木製の箱は黑焦げとなり居りしも其内の紙幣貨幣取交ぜ二萬五千八百五十一圓八十一錢五厘の現金は何等異狀なく之れと共に在りし現金出納簿に依るに前記の金額並に月日時刻迄記入せるが是れ同艦の爆發の時刻と同時にて主計長は自己の

◇**危急に方り** 職務を完全に執行せしものにて吳軍法會議より出張の諸澤主理以下感嘆せり主計長は赤坂區榎坂主計少監伊藤完司氏にして精算記入と共に其職に殉死せしものなりと（吳）

◎帝國義勇飛行協會解散す

昨年十二月發會式を擧げたる帝國義勇飛行會は歐州戰局の擴大と共に一時發展の機運に向ひ居たるも最近戰亂の終局と共に計畫上大頓挫を生じたる爲め一先づ解散する事となり殘務委員上村行敏中村虎之助川口秀武三浦義幹の四氏より關係方面に夫々通牒せりと

◎傳書鳩が佛國から ◇二月初旬に百餘羽來る

＝東京中野へ鳩のお宿

鳩は毒瓦斯に敗けない

我陸軍に於ては久しき以前軍用としての傳書鳩を使用研究した事もあつたが其後中止して居た所今次の歐洲大戰に於て傳書鳩の價値が◇**大に認め**らるゝに至つたので今度更に是に就いての研究を實施することとなつた夫れで過般佛國政府に依賴した結果傳書鳩に研究深き將校並に下士若干名が百餘羽の傳書鳩に附添ひ近く佛國を出發し二月初旬來朝の豫定である是につき陸軍當局は語る『歐洲戰爭に於て

◇**經驗した** 所に據ると鳩は毒瓦斯に當つても更に影響なく普通の狀態で其任務を果して居たことが明かになつた目下佛國の北部地方に於ては盛んに此鳩の競爭が始まつて居る陸軍では鳩の到着後中野の電信隊附近に於て種々實驗する筈で同所に係員の宿舍及び鳩のお宿を造つて居る』（東京）

◇暮の市場 廿七日南大門市場にて

◎小刀で支那人を刺し

橫濱正金支店戶口にて 三千圓を强奪

廿六日午前十時頃大連監部通り支那人南齊店新泰錢舖支那人仲買（二〇）が橫濱正金銀行支店より金三千圓を受け取り歸らんとするところを銀行の戶口に待ち構へ居りたる詰襟洋服を著たる年齡二十八歲位の日本人が突然仲に躍りかゝり小刀を以て仲の胸を刺し金袋の紐を切りて逃走し浪速町三丁目裏手の繁華なる所にて蹤跡を晦したれ支那人仲の負傷は重傷なれど生命に別條無しと（東京特電）

◎女の身で大金を騙取 金澤の銀行で

去る九月二十八日午後二時頃金澤市下堤町明治銀行金澤支店に年齡三十歲餘りの婦人が、同市下松原町羽二重問屋今井利右衛門の三千四百八十圓の小切手を差出し、該金を騙取したること後日に至り發覺し、金澤地方裁判所檢事局にては之が記事掲載を禁止し該犯人の檢擧に努めたるも遂に今日まで何等手掛りなく、五里霧中となりしより未逮捕の儘本日解禁したり（金澤）

◎補助貨が來る＝年内に鮮銀へ十二萬五千圓

◇**排底と惡商人** 補助貨就中一錢銅貨及び五錢白銅貨の排底が年末の押し詰るに隨つて愈々甚だしくなつて來た之が爲め市内各商店では銅貨なく客を斷る事一日に何十回とも知れずと思へば補助貨の同情者あるかと思へば補助貨の排底を奇貨として『釣錢が有りませんから釣に相當する物をお買ひ下さい』はまだよき方にて中には『釣錢が有りません何うしませう』で客の

▲**釣錢放擲** を强ふる如き惡商人も出來た是等に對しては其筋に於ても十分取締る必要あるは勿論であるが兎に角何れにしても補助貨の排底は事實である是が救濟の方法に就き朝鮮銀行の意見を聞くと『補助貨の排底は朝鮮よりも內地の方が甚だしい朝鮮では十一月末の調査で見ると約一千萬の補助貨が流通されて居る上に今月の中旬には十二萬五千圓の補助貨が流出されて居る之れを以て考へて見ると何うしても補助貨

▲**排底の聲** が擧る筈がない要するに餘り排底の聲が高いのは一般で補助貨を蓄めて出さないから斯くの如き現象を呈して來た事と思ふ銀行としては之を融和する爲め中央銀行に對して補助貨の回附を請願して居るが却々廻して來ない、それでも年内には更に十二萬五千圓の補助貨が到達する事になつて居るから多少の息はつけよう目下朝鮮銀行の一日平均交換高が市内二三千圓で地方が四五千圓に上つて居る之れは主として十錢以上の補助紙幣で銅貨は殆んどない』

▽各店に未だあるから 商業會議所曰く

尙ほ商業會議所では曰く『補助貨の排底は認めて居るが昨年の如き噂がれて居ない從つて當所として何等の協議も方策も講じて居ない要するに排底を告げて居て騷がれないのは各店共多少の補助貨が蓄へられてあるからでは無いかと思はれる』

◎動機は年末賞與

府當局者曰く『一部の不心得者の氣まぐれ的行動と見るが至當』 小學敎員連袂辭職後報

◇或は何等かの複雜なる事情の潜在か◇

昨日本紙逸早く報道したる釜山小學校敎員連袂辭職事件に關し其後探聞する所に依れば該事件突發の動機は年末賞與に對する不平に基くものにして今や敎育界の大問題となりつゝあり府當局者の言ふ所を聞くに右は單に一部少壯敎員間に多少不平を抱く者ありて遂に醜態を演ずるに至りたるもの何れにしても敎育者としてあるまじき

▲**不穩の行爲** に出でんとしたるもの如きも幸に未發に防ぎ得たるものにして未だ事實となりて現はれたる次第には非ず從つて世間にて取沙汰する程大袈裟なる問題とは思はれず勿論善後策に就きては夫々調査も爲し誠意を以て解決に努めつゝあり決して優柔不斷の態度は取らざるべく場合に依つては相當の處置をも辭せざる積りなり兎に角一般に唱せらる、如く全府小學校敎員擧つて是に左袒し一致して企てたる譯にはあらず一部分の

▲**不心得者の** 氣まぐれ的行動と見るが至當ならんと思惟す此邊は宜しく諒解無からんことを請ふ』とのことなり。併し今問題の範圍は府内小學校全體に亘つて行はれたるやに仄聞す又斯る過激敎員と他の敎員乃至校長等との關係兩者の態度等に就ては本社は多少聞き及びたる所あれども暫く公表を差控ふべし若松府尹を訪へば『未だ事實となつたものでは無いと思ふ

▲**賞與の不平** と云つても夫は皆上級官廳の意嚮に基づいて渡したもので如何にも致し方がない、何分十分調査の上でなくては詳しい話も出來ず其處置も決定しない』と云へり。尙ほ事件突發の動機は年末賞與に對する不平なりとするも元來敎育者として賞與以外の賞與金額を豫期して居る筈も無ければ只金額の多寡以外分配に關する問題なるやも知れず或は是以外何等か複雜なる事情潜在するにはあらずやとも思はる（釜山特電）

◎病夫に……人肉を＝喰はす

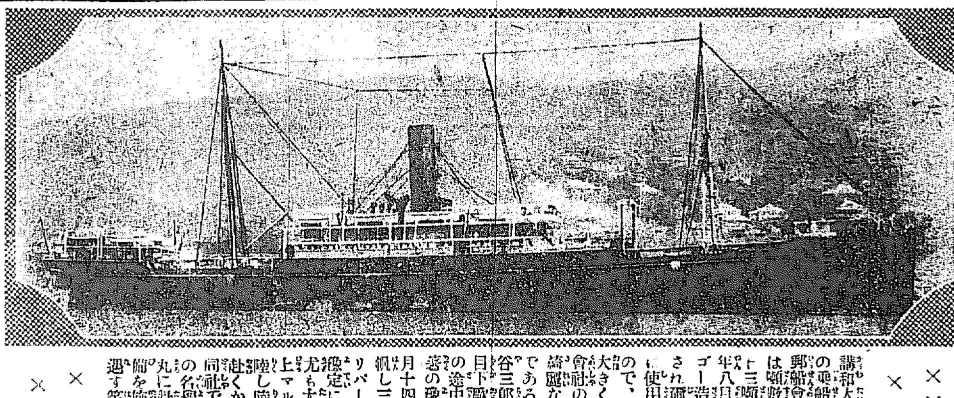
貞婦己が内股の肉をそぎて

大邱憲兵分隊管下慶北達城郡達西面中里洞居住金有福の妻朴在嬪（三〇）といふは十五歲の時金に嫁ぎたる者なるが夫金は五年前より癩病に罹り相當に蓄へありし身なるも此の病氣に入れ揚げて今は無一文となり其日の

▲**糊口に** も窮ならざる身の上となりしかも病氣は更に治癒せざるより本人は固より妻朴女も何とかして病氣を癒さんものと種々苦心の折柄病には人肉が何よりも効驗ありと聞かされたる事とて機會もあらばと窃に其の至るを待ち居たる折柄夫は廿日大邱の市に出で留守となれるより之れ最好の機會なりと利鎌を取り出し我れと我が

▲**左足の** 内股の肉長さ一寸巾五寸を五所に剝ぎ取り之れを小さく刻みて別に酒を買ひ夫の歸宅するを待ち今日は牛肉と酒とを買ひあれば之を喫めたるが夫は件の肉を熟視して不審を懷き口にせざりしに朴女は此上は詮方なしと終に前記の事實を明したるに夫金も其貞節に感泣しつゝ此肉は喫ひたりと此事何時しか大邱分隊の探知する處となりたれば分隊員は同家に出張の上迷信のため斯かる

▲**蠻行を** 敢てしたるを懇々嚴戒したりとの事なるも一面同女の心根に同情し無資產なるより大邱慈惠醫院に交涉し施療患者として去る廿六日入院せしめたりと（大邱）



◇特使西園寺侯の乘船『丹波丸』

××××

講和大使西園寺侯の乘船と決定した郵船會社の丹波丸は噸數五千八百二十三噸で明治三十年八月英國グラスゴー造船所で建造され爾來歐洲航路に使用されて居るので、船はさして大きくないが郵船會社の船の中では綺麗なものゝ一つである、船長は隴谷三郞氏で同船は目下歐洲から歸航の途中で月末神戶着の豫定で多分一月十四日神戶を出帆し三月十二日にリバープール著の豫定になつてゐる尤も大使には都合上マルセーユで上陸し陸路を巴里に赴くかも知れぬ、同社では此の空前の名譽を擔ふ丹波丸に對し相當の設備を施し大使を待遇す筈だ

××××

◎酒の檢査 總監部衛生課で

結果は良好

本年酒造用時期に於ては酒類の販賣又は製造業者に不正手段を以て暴利を貪る者無きを保し難きを以て本町警察署にては總監部衛生試驗室技術員と共に市内の重なる製造販賣者五名に就きその製造及び販賣品の檢查を行ひたるが結果は良好なりし由

◎兼二浦火災

二十五日午後十時頃三菱製鐵所船舶部舍宅が火を發し五戶燒失せり原因不明損害約八百圓（兼二浦特電）

◎巡査採用試驗

明年一月二十二日より二日間京城警官練習所に於て巡査採用試驗を施行するに由り志願者は志願書に履歷書を添へ同所まで提出すべしと試驗は身體檢查の外刑事法大意、警察規、日本地理歷史、作文算術及び書取にして合格者は同月三十一日入所の豫定なるが給與は敎習中四箇月間は三十四圓餘の月手當を給し卒業後は四十五圓以上を與ふべしと

◎遺族を慰問す

京城出征軍人上等兵古森仁三郞氏野戰病院にて死去したるに對し愛國婦人會役員久芳山口兩夫人は廿七日其遺族を慰問し弔慰金若干に風呂敷を贈呈し弔慰の意を表したりと

灯とし頃

福島縣川島町の渡邊といふ人が同縣林業講習會に發表した林業獎勵のサノサ節といふのが面白い（一）はるばると貴方は田島にクルミノ木、私は今朝からマツの木よ、御假久リの木ネーお腹スギの木ほんに私の木をモミヂ（二）もし貴方近頃御酒がスギの木ぢやないか、トチで云ふのぢやナシの木なれど、もしや臆にネーサワラせぬかと、私や心をアンズの木（三）こちの人私は貴方にホーの木なれど、貴方はよそにエンジュの木、そして私をネーケヤキの木ゆゑ、それぢやナラの木と心をもみの木よ（四）モー二度と二人はタガヤサンに逢はぬ氣で、むねもサクラの思ひして、別れた仲をネーマタタビノ、田島であらうとは氣がシタン（五）モシ貴方私をマルメロに何時結はせるの貴方のうそをコクタンは、ホデでネーをゐるけれど、よもやだましはセヌ木でせう

◎來年は寒い

去年は暮に寒く明けてから暖かつたが今年は冬異常に暖い時は冬異常に寒い是と同じやうに寒氣が早く襲來した場合には夫だけ早く暖かくなるのが常である今年の十二月は例年にくらべて珍らしく陽氣が續き一番寒いと云ふ日でも水點下十二度を超ゆた事はない此調子だと今年は遂に此儘寒さ知らずで終るかも知れぬが其代り明けてから急に嚴寒が來るのではあるまいかと思はれる去年の十二月は近年稀有の寒氣であつたが其代り明けてから馬鹿に暖かく又春の來るのも割合に早かつた彼是、照し合せて見ると春に入つてから急に寒くなるだらうと云ふ豫測は恐らく適中するだらうと思はれる（測候所員談）

◎撲殺される

畜犬にして首環及び氏名標札を附せざれば野犬として撲殺さるゝ虞あり飼主は此際其筋へ屆け出で手續きを了せらるべしと

◎鹿兒島縣人會と薩摩琵琶

二十八日午後五時より旭町にて開催す可き鹿兒島縣人忘年會に於て薩摩琵琶の名手を招請して最も豪快壯烈なる彈奏を爲し興趣を添ふ可しと

◇…警察の窓から…◇

▲**無燈火** 此頃の多忙に取紛れてか自轉車の無燈火通行が殖ゑ每日五六件の告發者を出すやうになつた。些細な手間であるから是非提灯を用ふることにしたい

▲**空巢覗ひ** 一家擧つて買物に出掛け家を留守にする爲め此頃空巢覗ひが非常に殖ゑた

東京期米

仁川正米

▲新甫内配

◎正米更に强し

天氣 曇

演藝案內

有樂館 活動寫眞常設館 『我が子は何處へ』 『知らぬ妻』 『恐怖の一時間』 『父の淚』

壽館

黃金館 京山愛三大一座 開演

文樂座 『漂ふ舟』

大正館 『闇の焰』 『雪と炭』

浪花館 京城明治町 落語

休戰と毛布

天下一品 白鶴 增本酒店 仁川本町三丁目

破格廉價提供 德用タドン 年末に付廿六日より三十日迄 二割引廉賣 小林商店

最新刊 滿蒙通覽 荷風全集 朝鮮法令輯覽

大阪屋號

模範牛乳 ニウソ 東亞牧場

新田帶革 白神洋行

大學病院携帶方劑 カゼピリン KAZEPIRIN 解熱完全劑 本舖 淺野榮天堂藥局 秋の風引には

(明治三十九年九月十八日第三種郵便物認可)

戰地給與改正

二十三日勅令を以て出征將卒に對する給與改正を公布せられたるが本改正の內容は戰地に在るもの戰時增俸の增加並に下士以下に對し日用品を支給するの途を開きたるものにして改正の精神は主として戰地に在る下士以下の給與を厚からしむるに出でたるものなり但し將校に對しては必要なる程度に給與の增加を同時に行はれたり以上の外現行法規の範圍に於て加給品の增加新年祝賀の加給をも併せて實行し戰地將卒の給與に遺憾なき如く改善を加ふることゝせり以下其の大要を述ぶることゝすべし

戰時增給

(一)將官級及相當官　從來本俸に對する十分の四なりしを十五分の五に定む

(二)准士官以上及軍屬雇傭員共　從來本俸に對する十分の四なりしを十分の六に改む

(三)下士以下　從來本給に對する十分の五なりしを十分の十に改む

右に依り將官級は一割佐官尉官准士官級及軍屬は二割下士以下は五割の增加となる以て下士以下に重きを置きたることを窺ふに足るべし又右戰時增給の外臨時手當として本給料に對する十分の四を併給せらるゝを以て之を合するときは曹長級に於て一等級を受くる者月額四十七圓五十二錢兵卒級に於て月額三圓七十四錢を受くることゝなる被服糧食日用品其の他加給品等を給せられたる外本給料を受くることなれば先づ相豐なりと謂ふべし

日用品

日用品は從來官より支給せず各兵卒は前記支給の給料內に於て各自買辨し來りたるを今回は給與を厚からしむるの趣旨より新に官に於て支給するの途を開きたり

加給品

加給品は概ね清酒、甘味品、卷煙の三種にして從來は一箇月に清酒二回甘味品六回卷煙四回支給せしを今後は清酒を四回卷煙を八回支給のことに增加せり

新年祝賀用加給品

以上加給品の外新年祝賀用として雜煮、祝酒、汁粉等の諸材料を給す

之れを要するに被服、糧食、住家等規定支給の外季節に應ずる防寒被服一切の暖採保溫の設備等

悉く官の給與を受くる外今回の改正に依り以上增俸の增加、日用品の支給、加給品の增加、新年祝賀用品の支給を受くることなれば給與其の他に於ても先づ不足なかるべしと(東京支局)

陸軍豫算概要

大正八年度陸軍省所管豫算の概要を聞くに大正八年度陸軍省所管豫算額は經常部九千七百餘萬圓臨時部四千七百六十餘萬圓計一億四千四百六十餘萬圓にして前年度豫算總額は一億千五百八十餘萬圓差引增加額二千八百八十餘萬圓なり而して右の內當然增加となるべき軍備充實及び朝鮮師團等の既定年割增八十六萬餘圓精米馬糧價格其他前三ヶ年平均等に依る增加六百九十四萬餘圓計七百八十餘萬圓を差引き新規事項に屬するものは經常部四百二十餘萬圓、臨時部千六百八十餘萬圓計二千百餘萬圓なり右新規事項の內主なるものは左の如し

各部隊編成改正其他增員等の經費	七千百十萬餘圓
經常費	一八七六九三九圓
臨時費	二三五九九圓
陸軍省航空課の新設	三萬餘圓
航空學校の新設	四百十三萬餘圓
航空第一大隊改編及び球隊獨立	二百十四萬餘圓
步兵學校改編	六十八萬餘圓
騎兵學校同	十四萬餘圓
野戰砲兵學校同	四十萬餘圓
重砲兵射擊學校同	四十六萬餘圓
工兵學校新設	百五十一萬餘圓
陸軍航空部設置等	十一萬餘圓
技術制度改正	六十一萬餘圓
重港要港に築兵增加	八萬餘圓
車馬補充部支部分廠增設	四拾萬圓
其他	三十九萬餘圓
諸給與增加に要する經費	百七十三萬餘圓
文官俸給平均額改正	四萬餘圓
士官准士官俸給節給區分改正	六十萬餘圓
勤務演習召集者家族手當	百萬圓
憲兵下士初任手當士官候補生要手當給與	八萬餘圓
特務演習及び研究に施の爲め旅費等增加	二十一萬餘圓
救濟組合制度實施經費	廿一萬餘圓
各種兵器製造及び試驗費增加	五十萬圓
久留米水道敷設費等	十九萬餘圓
自動車獎勵費の增加	二十萬餘圓
確定經費小兵器に對する市價騰貴の增加	八百四十五萬圓
其他諸費の增加	三十餘萬圓
兵器軍裝備其他	百九十一萬餘圓

臨時事件費へ移轉したる分は俸給旅費其他給與增額の分千八百五十萬餘圓兵器被服建築其の他物價騰貴の分千八百六十餘萬圓計三千七百十餘萬圓なり

京日曆

大正八年一月　京城標準時刻

(日)	(日出)	(日沒)
一日	七、四八	五、二五
十五日	七、四八	五、三八
卅一日	七、三九	五、五五

四方拜

◆一日　四方拜　遙拜ヴアシラード帝誕辰
◆二日　舊十二月朔日(朔午後五時二十四分)
◆三日　元始祭　初卯
◆四日　政治始め
◆五日　宮中新年宴會
◆六日　小寒　午後五時五十二分
◆八日　陸軍始め
◆十一日　鏡開　八專明
◆十二日　きのへね
◆十五日　やぶいり
◆十六日　滿月
◆十七日　つちのとみ
◆十八日　歌御會　土用午後零時三十六分
◆二十日　二十日正月
◆廿一日　大寒　午前十時二十一分
◆廿四日　下弦
◆廿五日　初天神に南山の天滿宮に參拜するもの多し
○惠方　あきの方(寅卯)
○日の吉方　北の間よろづよし

晝夜

(日)(晝)(夜)
六日小寒九、四一　一四、一九
廿一日大寒九、五九　一四、〇一
五、十二、十九、廿九

安東縣の工業(三)

新義州稅關調査

精米業

◆三省洋行精米所　は明治四十年三月の創立にかゝり經營者は中野初太郎氏、資本金は二萬圓、精米のみにして一箇年約九千六百石を精白す販路は安奉、滿鐵兩沿線にして動力は電氣十五馬力、使用人員五十五名、五間背に分工場を有す

◆田中精米工場　は明治四十三年三月の創立にして經營者は田中喜吉氏、資本金一萬圓一箇年の精白原料米一萬八百石、原料仕入地は平安北道、安奉沿線等にして動力として電氣七馬力半を有す

◆遼陽商會精米工場　は大正元年七月の創立にて經營者は高橋貞二氏なり資本金は三萬五千圓、大正六年の實績によれば一箇年の精白高一萬二千四百石、價格三十一萬圓、動力は電氣十五馬力

◆僑東商會精米工場　は大正二年九月の創立にかゝり經營者は長盛德主人朴洗なり資本金一萬圓一箇年の精米原料一萬二千石、原料仕入地は平安北道龍川郡方面、動力は電氣七馬力半なり

◆西播洋行精米工場　は大正二年九月の創立にて、資本金は貿易部と合して十萬圓經營者は大西助次氏一箇年の精白高は一萬二千石原料は主として平安北道產米にして動力は電力十馬力を有し使用人員は一定せざるも約五十名內外なり

◆貝原精米所　は大正二年九月の創立にかゝり貝原源次郎氏の經營する處資本金は一萬圓一箇年の白米は三千石原料米は主として平安北道產米を使用し動力は電氣十馬力精米機は敷島式三臺使用人員三十六名

◆野村號石粉製造工場　大正四年五月の創立にして經營者は野村貞造、資本金二千圓、精米用の石粉の製造販賣を目的とす一箇年の製產額百二十萬斤、動力は他力十五馬力、石臼二個販路は滿洲、安東、新義州方面なり

造船鐵工

◆高見造船所　大正四年六月の創立にして經營者は高見吉太郎氏、資本金十五萬圓、目的は木造帆船、汽船、漁船等の建造なるが一年の造船成績は帆船三隻約千五百噸、其他小船二隻、使用人員百四十五名、目下六道溝に於て第二工場建設中なり

◆井上鐵工場　は明治四十一年一月の創立にして經營者は井上辰三郎氏、資本金二萬圓、目的は諸機械類の修理なり、動力は電氣二馬力にして近々蒸汽動力使用の計畫中に屬す

◆宮崎鐵工場　は大正七年三月の創立にて經營者は宮崎政市氏、資本金五百圓

◆大森鐵工所　は大正三年九月の創立にして其の經營者は大森雅記氏、資本金一萬圓、目的は諸機械類の修理に重きを置く動力は電氣五馬力、使用人員四十七名

◆藤田鐵工所　は明治三十九年の創立にして其の經營者は藤田駒吉氏、資本金一萬圓、目的は土木建築材料の製造、日用品の修理等なり動力なし使用人員廿一名內外なり

◆滿鮮鐵工所　は大正六年五月創立の株式會社にして業務擔當者は齋藤週二郎氏、目的は諸機械雜器具の製造修理にして動力電力十二馬力、旋盤十一臺を有し目下六道溝に新工場建設中にて資本金は十萬圓二分の一の拂込みなり

炭も焚方で餘程儉約ができる

(附)瓦斯七輪濟經法

京教育會館に於て家庭科展覽會が開かれた、家庭に關することは其の大部分が經濟と衞生に關することである、茲に紹介するは府立一高女學校の研究に係る木炭、炭團、瓦斯の經濟的使用法である、時節柄參考に資すべきものと信ずる

先づ燃料の經濟的研究に當つて、先づ考へなければならぬことは、熱の放散を防ぐ裝置を何うすべきかであるが、これに關する東京府立第一高女の研究によると同樣の

◆三つの火鉢　に一個二十三匁の炭團一つを使ひ(同じやうに起した炭團、頭の僅に出る程度に埋めて)それに一升入の鐵瓶に同一溫度の湯を入れて掛けて置いて、(第一)火鉢をその儘で置く方法こ、(第二)には高さ二寸五分の俗梅木のアミを掛けて置くのミ、第三には火鉢の周圍を新聞紙で覆うて、上の方から下方は新聞紙で緩く結んで置く等の實驗を試みたがその結果が次のやうな經過を示したさうである

(時刻)	午前十一時	午前十二時	午後一時	午後二時	午後三時	午後四時	順効
第一	八〇	五八	四四	四二	三九	三九	(三)
第二	八〇	六二	四八	四四	四二	四二	(二)
第三	八〇	七〇	七一	六八	六五	六三	(一)

また炭團の消ゑた時を示すミ第一法では午後九時四十分で(保持時間十時間四十五分)第二法では午後十一時卅分で(十二時間卅分)第三法は午前零時五十分(十三時間五十分)こなつて居る。要するに火鉢や七輪等ではアミを用ふることが有効なこと、火鉢には『助炭』を用ふること。その他煮沸若しくは一度煮たものは冷たい爲めに、風呂敷樣のもの又は新聞紙を掛けて置くことが有効だこいふことになります。然らば

◆物の煮方は　何うかこいふに、(一)同じ三個の七輪を用ゐて、(二)同じ鍋に小豆二合宛を煮るに、(三)燃料に雜堅(一貫の特價三十三錢のもの百匁を用ふ)の比較實驗によると、第一法として軟かくなるまで強い火力で煮炊するこして、は消耗炭七〇匁、消費價格二三、一厘。第二法として沸騰後直ちに火力を減じ單に沸騰を續くる丈けの熱を與へて置くと、消耗炭三五匁、消費價格一一、六厘。第三方法こして沸騰後三十分間火力を減じてから中に入れ、約三十分間ムラシ置き、次に沸騰せしめて更に三十分間ムラした結果、消耗炭二五匁、消費價格八、三厘こなり、有効順序は第三第二第一の順になつた、この

◆實驗の結果　第三法は燃料には經濟であるが手數を要し且つ特別の器具裝置を要するのと第二方法が何んな場合にでも出來る方法で、且つ煮沸時間の長きもの程燃料の節約上有効なものとなつて居る。殘り炭からいへば、第一法は三十匁、第二法は六十五匁、第三法は七十五匁殘る次に

◆瓦斯炊きで　米二升宛を三樣に炊いた經驗によりますこ(十一月頃の水道水即ち攝氏十七度のものを用ゐて)第一方法こして點火から水の引くまで、同じ強さで瓦斯で炊き通して(點火時間)一七分三〇秒(瓦斯量)一、七五立方尺(瓦斯代)二〇、四厘

第二法こして、煮立つ(十二分目に沸騰す)こ直火力を四分の一に細めて後、五分間で消した結果點火時間一七分、瓦斯量八、八五立方尺、瓦斯代一五、四八厘(差引節約量四、九八厘)

第三法こしては、煮立つこ直火を消し、五分間の間を置いて再び二分の一の細火で三十分間煮た結果點火時間一五分、瓦斯量八、五立方尺、瓦斯代一四、八八厘(差引節約五、〇七厘)

こなり、第二第三法は第一法に比して瓦斯代の四分一の節約が出來るこごが解る。之れを他の

◆魚や野菜を　煮る第四法を試みたが、煮方には少しも變りはないこいふこごである、今、東京全市の瓦斯使用量の昨今一日の平均量を見るこ一千萬立方尺で、使用戶數は約三十萬戶、一戶平均して三三立方尺餘、今假りにその半分が炊事に使用されてゐるこしても、この節約方法を用ゐるこその四分の一立方尺

◆即ち一日に　百二十萬立方尺、一年合計四億五千萬立方尺、代價にして七十八萬七千五百圓の節約こなるのである

囚徒が減た

犯罪の傾向に就て立派な作業品

公州監獄　中村典獄談

公州監獄中村典獄は在監囚徒の增減及び囚徒の作業に關し下の如く語れり(公州)

大戰亂の影響は物價騰貴となり到る處生活難の聲喧しきに反し公州監獄在囚徒數は本年七月頃より漸次減少しつゝあるが之れが主なる原因に付きては目下研究中なるが獨り執行猶豫と宥刑出獄するもの及び流行性感冒等も其一因たるべし尚囚徒の犯罪に依る增減は下の如しとす

◆竊盜犯增加　し詐欺橫領文書僞造賭博罪は減少せり囚人の作業中女囚の內地人向き裁縫は中々の好成績にて昨今年末にも際したれば依賴者頗る增加し到底年內には遣り切れざるを以て大抵は斷り居れりこ又

◆久留米絣　同製織は本年九月頃に四五名の男囚に試織せしめたるが是れ亦成績の稍見るべきものあるを以て漸次擴張して目下作業囚徒三十五名なるも結局八十五名迄は

◆增員　せしむる計畫なり而して織り上げたる絣三四反を實見したるが中々本場物も及ばぬ程の上出來なりこ

日本化せられた兩市街

興味ある極端と極端との對照　汚なつた青島、立派になつた奉天

奉天

明年の秋には大した市街になる

奉天の新市街は昨年以來邇に發展しかけて各種會社銀行は勿論商店も普通住宅も皆新市街方面に集中し今迄野原同樣の荒地たりし忠魂碑附近には滿洲興業會社の貸家が一棟百戶程新築され從來滿鐵の北海道宿舍と云つて奉天として最も遠い地點に位して居つたのも現在は西六條街と七條街に挾まれて夜間たりとも淋しさも感ぜず明年度からは平康里を乘り越て更に西南方面へ市街が擴大されると云ふ勢ひを示して居る

◆電燈煌々　の間に何等の居る斯く奉天新市街の發展し行くに從つて滿鐵に於ても今後の施設上附屬地の面積を廣めねばならず大連本社各課から組織された

◆土地買收　に關する調査會を設け明春早々から奉天に常置して調査の步を進める樣に噂されて居るが其事の未だ公表されて居ない限り茲には一寸斷言を憚るが今の兵營地に就ても某農場方面へ移轉こか何こか言はれて居る夫れから奉天新市街建設上最も邪魔になつたのは西一條に在る滿鐵宿舍で之は萬人の

◆異口同音　に批難する處であるが故に地方事務所に於いても現在市街地發展の狀勢に鑑み該方面の宿舍全部を改築して一の貸家こ爲し宿舍は別に相當の地點を選定して新設するこ傳へられて居るが之こても未で公表されてゐないから今後如何に變更されるか分からない兎に角地方事務所が明年度に要する凡ての施設費

◆一百萬圓　と云はれて居るから考察するミ大部分は市街に投ぜらるゝものと見て差支なかるべく殊に上水設備の完成を期する爲めには記念碑附近より十間房方面へ幹線を延長し隨つて枝線をも引延ばして一般住民に不自由なからしめ又市街地の

◆膨脹　に伴れて消防機關をも完備せしむる計畫既に出來て居るこの事なれば明年の秋頃には大した市街になるだらう

青島

年々害はるゝ市街と建物の美觀

占領後暫らく青島に在の最近再び當地に來て居る某氏は市街の體裁に付變化を評して曰く『大正四年頃は未だ秩序の整頓せぬ處もあつて道路設これ家屋には砲彈にて破られたる痕もありて市街の模樣は雜然たるものありしは事實なるも併し全般の

◆市街美　こ云ふ點より見れば當時は今日以上に色彩の鮮かなるものがあつて青島は流石に獨逸が東洋の宿林を以て誇りし丈の價値ありこ肯かしめられたが今日再度來りて見て得たる印象にては市中全體が妙に灰色、澱んで生々潑溂たる色彩を失つて居るやうである

◆近い例　では青島名物ミして聞ねて居る海水浴場の如きが露衣場のペンキは褪せて昔日の美觀は殆んご失はれたミ云つてもよく舊青島區の獨逸人家屋も何年來一向だも外部の塗替へをしなかつたものが一體に小汚い感じがする臺東鎮附近の

◆工場地　を始め市中到る處の空地が家屋を以て塞がれたのは結構だが市街美を害す程の建物なくて全體を引括めて云へば兎に角汚くなつたこ云つてよい』

九星の解剖

素人早判り法　雲井堂主人

(上)新聞と九星判斷

近頃九星といふものが迷信家の間に持囃されて新聞紙の如きも毎日九星の吉凶判斷を掲げぬと多數の讀者に氣受けが惡いこいふ有樣である、固より相當の常識を有つた人は此迷九星抔を相手にしない事は勿論であらうが、併し表向立派な事を云つても其實密に氣を置いて九星觀に注意して居る者が尠くない樣である、甚だ失禮な申分ではあるが立派な智識階級の御歷々の斯んな手合があるから面白い

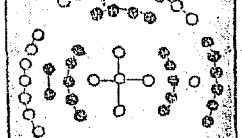
九星判斷こ易斷

一體此九星こいふものは無論其の以前からも有つた事は有つたが今日の樣に盛んになつたのは、漸く日露戰爭以後のことである、そこで四十歲以上の御方は御存じであらうが昔は一部の社會即ち花柳界こか或ひは頑固な御隱居の外は餘り九星抔に頓著しなかつた、東京邊りでも其以前無論ウラナヒこいふ事は流行つてはゐたが其れは殆ご全部『易』によつたものである、易こは御承知の通り筮竹と算木を用ゐて易の六十四卦を抽出し其得たる所の卦象によつて判斷するのであるが、九星は九つの星が循環するものこ假定して其の星の巡り方に據つて吉凶禍福を占ふのである。

近代思想から見た易

易は太古支那に於て伏羲氏八卦を作り又之を重ねて六十四卦こなし神農、黃帝、堯、舜、夏、殷を經て周の代に至りて文王卦辭を作り周公爻辭を作りて初めて大成されたるもの、如く傳へられてゐるが、要するに易の經文こ主意こは修身經國の大道を說いたもので、恐らく其の根元は支那上古に於ける或る時代の覇者が其祖國たる西域より輸入したるものであらうこの事である。

是に於て(一)易の八卦は古代バビロニアミアッシリアに於て用ゐられたる楔形文字を更に簡易にしたものであらうこ云ふ考證こ(二)易の根元が中央亞細亞に於て發生したる說を據こして易の經文は殷の末周の初めに於て紂こ周この事蹟を寄へて何人かゞ作つたものであらうこの說(遠藤文學博士)もあるが永くなるから詳しく述べるのを見合せる



河圖

九星の元は陣法

易は前記の如く修身齊國の要締を示したものであるが、九星は之こ異なり普通の作つたこ稱せられてゐる『河圖』こいふ陣法の圖を基本こして之に水木火金土の五行を配し更に易の八卦に配當八事に關する事を占ふ方法であつて兎も角其の當る當らないは二段こして極めて巧妙に考案されたウラナヒ法である事は之れを斷言するに憚らぬ所である。

廢物利用

主婦の心得

◆古い女の袴◆　古くなつた女の袴で、座蒲團を作れば柔かで暖かいのが四五枚ぐらゐは出來ます。その儘でもよろしいが一旦色揚げをして用ふるこ一層よろしいです。

◆裾廻しの利用法◆　古くなつた裾廻しは、つぎ合せて女の著物の胴裏に用ふるこよろしいです。ちがつた色のときは一旦染更へて用ふれば、少しも見苦しいことはありません。

◆靴下の編代◆　靴下は下の方だけが傷んで、上の方は何ともならぬものですから、修繕してもはかれなくなつたものは、上のよい部分だけ解いて、その綿で再び靴下を編むこ立派なものが編めます。

東京株式
二十六日後場　東株　一五九、〇〇

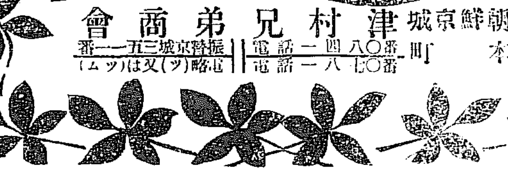
東京現株中値
二十六日　東株　二三三、〇〇
新鐘　一五五、七〇
二九、六〇
滿鐵　二三、二〇
朝鮮興業　五七、〇〇
京城電氣　一八、〇〇
同新　二五、〇〇
朝鮮瓦斯　一八〇、〇〇

下關期米
二十七日前場　中限　三八、一〇　先限　三七、九〇
高値　三八、一四

仁川期米

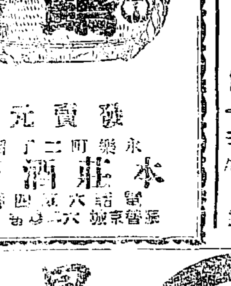
報時晴

瀨戶外科皮膚科醫院
(診察夜九時迄)
京城旭町二丁目(舊三丁目)(電話四九八二)
醫學士　瀨戶潔



人蔘エキス
陸軍御用
各文店及全國有名なる藥店に販賣仕居候
萬一藥店に品切の節は本店へ御注文願上候
朝鮮京城本町　津村兄弟商會
電話一四八〇番　電話一八一〇番
振替京城三五一一番　電略(ツ)又はツム

片山內科醫院
京城太平町二丁目七十三(太平町大通り)
入院隨意

優等清酒

發賣元　永樂町二丁目　本莊酒店

內科　胃腸病
診察夜九時迄
京城本町一丁目　石川醫院　電話二三七二九番

鞄は製造元の古賀鞄製造所
京城明治町二丁目
電話一八三三番
御買上金壹圓毎に景品券進呈

イケダ小兒內科醫院　池田季雄
京城三越吳服店前へ入る旭町四丁目電話(醫院一三三四番　自宅三〇〇〇番)

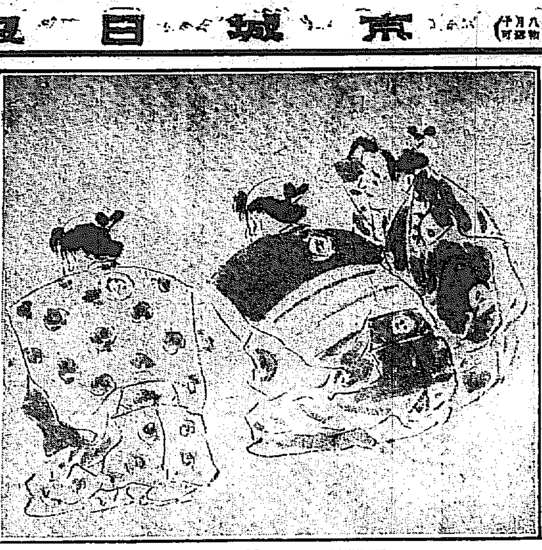
荊妻ウメ儀永々病氣の處養生不相叶廿七日午前四時死亡致候間生前辱知諸彥に此段謹告仕候
追て葬儀は廿八日午後[illegible]時大和町曹溪寺に於て執行途中葬列を廢し候
夫　篠崎半助
親戚　豐坂勝太郎
同　町田文次郎
同　堺谷計三郎
友人　牧山耕藏
代人　池田長兵衛

最上醬油
朝鮮仁川港
高杉醬油醸造場

左官建築材料社
セメント石灰
硅藻土火山灰
左官材料一式
各種色土砂
布海苔芋莇
各種塗料品
煉瓦用、東京鏝
建築材料種々
各種耐火煉瓦粘土
煉瓦土管瓦
各種莇類製造
九州火山灰合資會社特約販賣
京城電氣株式會社製　瓦斯コークス　コールタール　特約販賣
平壤小野田セメント株式會社製　石灰特約販賣
京城旭町一丁目　電話九八四番
卸商　戶澤商店

毛谷村六助 廿六番角力
二百二席　桃川桂玉口演　浪上義三郎速記

秀吉が輪違ひの印の付いた旗を出して考へて見ろと云はれた時に、第一番に進み出たのが福島市松、市『恐れながら此は丸々鏡い看板でございませう』秀『馬鹿な事を申せ、左様な物では無い』脇坂甚内が進み出で　甚『甚内申上げます、是は明日森山城の戦ひに二人前の功を立てたら遣はすこいふ謎でございませう』秀吉は丁と手を拍つて　秀『甚内偉い、其の通りぢや、其方に之れを遣はす』甚『ハ、有難き仕合せに存じます』と甚内は是を貰ひました、抑も甚内の功は是が初めにて、此の輪違ひを脇坂家の定紋こいたしました、紋所は輪違ひであるが、するこごには輪違ひは少しも、皆無いと甚内が是を拝領して明日ごんな功を立るかと其の働き振を見て居ります、其の翌日に至



つて愈戦ひが始まる、然るに城將佐々木五郎左衛門は不敵の勇士であります故、柴田明智の兩陣を討惱まし、城中より乗出した五郎左衛門、身の丈六尺四寸、赤絲威の鎧に黒羅紗に白絲を以て四ッ目の紋を縫ひ取り、四ッ目の前立打つたる兜を頂き、三尺二寸の陣刀を横へ、大薙刀を提げ、黒毛の馬に乗鞍置いて打跨り、群がり立つたる織田勢の眞只中へ乗込み四方八方へ驅廻る有様、流石の織田勢それが爲に討破られ、隊伍を亂して逃げる處へ一人の若武者、萌黄絲の鎧同じ毛の兜を頂き、赤毛の馬に打跨り槍を取つて乗出し、大音を揚げて　甚『木下藤吉郎の家來脇坂甚内安治、イデ敵將佐々木五郎左衛門に見参いたさん』と渡り合ひ、七八合交へたと思ふと、五郎左衛門を馬より突落した、此の有様を見て敵も味方も賞めぬ者はございません、甚内は馬より飛び下り五郎左衛門の首を掻け、緋地大刀薙刀は勿論、分捕つて鞍の山形へ縛り付け、首は腰に結び付け再

び馬に打跨り天地に響く大音揚げ　甚『木下藤吉郎の家來脇坂甚内、敵將佐々木五郎左衛門を討取つたり』と呼はつて其儘陣中へ立歸つて参り實檢に供へると、秀吉之を見て大いに喜び　秀『今に始めぬ汝が功名賞め遣はす』是が爲に森山城は徹塵に破れる、其内に柴田勝家が一番乗をいたし、是より觀音寺山落城して佐々木は滅亡、偖信長は是までの戦ひ大勝利、此の位にして止めて置けば宜かつたが、此の勢ひに乗じ三丹州を平定しようこいふ氣がある、然るに秀吉が　秀『既に永祿三年五月十九日今川を鳴海街道にて討ち永祿七年稲葉山の齋藤を滅し、今又此の近江觀音寺の佐々木を討つて君の功は充分に諸國へ響き渡りました、されば此の上丹波路へ手を入れ玉ふこ

こは御見合せあつて一度び軍馬を休め一兩年を經て改めて戦ひを起し玉ふて然るべし』と申上げると、信長笑つて　信『汝勇氣を挫くこ勿れ、此の勢ひに乗じ丹波を討平げるに何の難き事やあるべき』と秀吉の意見を背かない、乃で秀吉は家來を伴れて江州長濱へ引揚ゆる、信長は柴田佐久間を從へて丹波路へ向ひました、此の丹波國保月の城に日本の項羽と云はれる赤井悪右衛門光政といふ豪傑がある、此の保月の城を攻めにかゝつた處が、信長の同勢連戦連敗只の一度も勝つことが出來ない、それで此の悪右衛門光政といふ人が、身體壯健かと云へば、脊に變こいふ腫物が出來て、是は命取りこいふ位、極質の悪い腫物で其の惱み一方ならず、脇息に凭れて呻吟て居て、愈敵が押し寄せて來たといふと、討つて出て縦横無盡に駈廻る、其の強いこと、成程項羽と名付けたも道理、織田勢に當る者が無い、信長は如何にも殘念に心得、此の保月の城を取巻きにして赤井悪右衛門を兵糧責にしようこいふ意氣込、遂に信長は是を實行して保月城を遠巻にいたしました

◎製藥業者に破産者續出す

醫療、工業用各藥品の暴落に就ては、需用者大喜びだが、製藥業者は大恐慌で破産者續出の狀である、内務省では藥品の輸入杜絶に苦しんだ大正三年十一月から、衛生試驗所内に臨時製藥試驗所を設け、今日迄に貴重藥品四十餘種の製法を發表し中には神經痛の新奇藥

〈〉河豚の毒汁

などゝ云ふ世界に誇るべき大發見さへして民間製藥事業を盛んにしたもの、今日こなつて見ると夫が製藥者を困らせた事になつた、そこで當局者では破産に瀕した、我製藥業者の救濟策に就いて協議會を開くさうだが、野田醫務課長の談によると『一寸調べて見ても先月には

◇苛性曹達が

百三十一萬二千斤、曹達灰千五百萬斤、石炭酸十三萬七千七百九十斤と輸入されてゐる、是では封度五六圓した、石炭酸が一萬五六十錢に、四十圓の苛性曹達が十一二錢にも暴落する譯である、内地製を此輸入品に對抗させるには從前二割位の關税を三割位に引上げるのも一策であるが、藥價が高くなれば

◇一方需要者

が困るから其程度と調和とが六ヶ敷い問題である、さりとて折角自給自足の域へ進みかけた製藥業者を見殺しには出來ない、殊に政府としては藥品の自給自足を圖る爲め製藥試驗を益完全にしたいので、三十餘名の囑託員を本官に直す必要を認め

◇既に官制を

定めて目下法制局で審議してゐる

▲撫順炭
南滿洲鐵道會社特約店
西村商會
京城永樂町二丁目
長電話三〇三番 九二〇番

寫眞
宮寫眞出張撮影 寫眞銅版、亜鉛版
熟練せる技術を以て最も廉價に迅速と懇切を旨とし御高需に可應
京日寫眞製版部

十二月廿九日
舊十一月廿七日 ▲庚戌 ▲本命二黒 ▲卸ひつじさる(西南) ▲ひらく ▲星 ▲日曜
▲二黒▼ 戒慎を要する日西南凶、南吉
▲三碧▼ 餘まり面白くなき日福部け吉
▲四緑▼ 蹄に落ちぬ様なことのある日
▲五黄▼ なんとなく親しみのあらはれ也
▲六白▼ 仕事の上かねて下にて儲る日
▲七赤▼ 目上の引立を得る日進んで吉
▲八白▼ 嬉しき目にて愉快なる日也
▲九紫▲ 目下より立てらる賑やかな日
▲一白▼ どうも感心のでき難き日なり

當銀行ハ預金貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候
京城 朝鮮銀行 振替貯金口座京城三三三番 電話六〇一〇番
支店 東京、大阪、神戸、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎭南浦、群山、木浦、羅南、會寧、安東縣、奉天、濟南、滿洲里、齊齊哈爾、大連、青島、長春、開原、四平街、旅順、遼陽、吉林、哈爾賓
出張所 營口、傳家甸、龍井村、鄭家屯、上海、天津、鐵嶺
右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

明眸

人氣ますます盛なる

白色美顔水

現今の御婦人全體の要求にぴつたり適つた新式化粧料

御婦人方へ!!

▲茲に意外な 現象があります。皆様はよく、少しも飾こらしい所が無く極く自然にスツキリと氣持のよいお化粧顔の方を御見かけに成ませう。而て餘程お化粧上手の方が、何か特別の ▲秘密な方法 に依らないでは彼あは行かぬこお思ひに成ませう。所が案外にもあのお化粧が今では誠に苦なく出來る時代となつて居りますのです。あれは光榮ある桃谷研究試驗所創製 ▲三十六種の 高貴御用命品の一種として今や全々人氣を集めてゐる白色美顔水でお化粧なさつたのでムいます。實際此品でお化粧なされば、苦なく見事に、丁度生れついて色白の方の ▲自然の儘の 色の白さ、美しさ……、あゝ言つた美しさを、極く美術的にそれでゐて少しも態とらしくなく發揮する樣に成つてゐるから妙です。一體從來お化粧と言ふものは概して ▲婦人の苦痛 の種になつて居たもので、兎角不自然で白ペンキの樣に白かつたり何となく薄黒かつたり、斑だつたりして、何うも充分綺麗に行かなかつたものですが、白色美顔水が ▲學者の研究 で世に現れてから、全く然ういふ心配が無くなつたので、婦人方の滿足此上なく、忽ち大變な歡迎を受け今ますゝ流行こなつて居るのですが、では白色美顔水こは ▲どんなもの かこ申しますこ、普通の水へ白粉を溶込んだ樣な品で無く桃谷研究試驗所で新に完成した美容成分こ或特種の白粉を元にしてありますので、第一被覆力が強い爲附けて ▲斑にならず 生れつき色が白い樣な白さに附き第二に白粉の原料に殊に光澤のよいものを撰んである爲其白さに如何にも活々した艶が添ひ、第三に前に申しました新しい美容成分の ▲新しい作用 から化粧の一時的の美しさばかりで無く、常用するうち生地から皮膚を艶麗にし素顔の美を増す特色が在ります。化粧を一層自然に態こらしくなく而て美術的にこ言ふ ▲近來の婦人 方全體の御希望は、始めて白色美顔水で滿されたのであります。斯ういふ完全な化粧料ですから、白色美顔水は高貴の方々の御間にも始終御愛用を拜して居ますのです

新化粧料三種
▲白色美顔水
▲淡紅色美顔水
▲肌色美顔水

味噌の横綱 ほまれ味噌

互光商會汽船出帆廣告
◎元山西湖、城津、清津行
第一◎◎丸 十二月廿三日 釜山出 十二月廿九日 元山出
門司、宇品、神戸、大阪行
第◎◎丸 十二月廿一日 釜山出 一月二日 元山出
京城 大和町酒部 電話一三三

尼崎汽船仁川出帆
湖南、木浦、大連行
江代丸 十二月 日後四時出
大行丸 十二月 日後四時出
神代丸 十二月 日後四時出
仁川海岸通二丁目(電話五九番) 高杉回漕部

大阪商船汽船出帆
(仁川出帆)
神戸大阪行
×安東丸 十二月 日 正午出
×信濃川丸 十二月 日 正午出
(元山出帆)
西湖津、新浦、城津、清津行
宮島丸 十二月卅一日後十二時
釜山、門司、宇品、神戸、大阪行
安平丸 十二月廿五日後九時出
(大連出帆)
上海、基隆、打狗行
湖北丸 十二月 日前六時出
基隆丸 一月二日後六時出
内地各港出帆上要ノ分
南米行 一年四回
北米行 一年四回
濠洲行 每月一回
孟買行 每月一回
南洋行 每月一回

◎外國航路 大阪商船株式會社仁川支店 電話五〇番

朝鮮郵船出帆
敦賀行 清津發、城津、元山經由
平安丸 一月五日 清津發
▲清津行 一月七日 元山發
平壤丸 一月廿一日 元山發
▲雄基行 一月十九日 釜山發
山陽丸 十二月廿六日 釜山發
咸鏡丸 十二月廿八日 元山發
▲元山雄基線 一月廿一日 元山發
穩城丸 一月四日 元山發
▲大阪行 十二月三十日 元山發
後丸 一月一日 釜山發
▲關門行 城津、清津、元山、各港
京畿丸 一月三日 元山發
非丸 十二月廿九日 釜山發
▲金剛山遊覧便 元山發長箭經由
▲鬱陵島行 釜山發浦項及各地經由
昭德丸 十二月三十日 釜山發
▲釜山浦項線 一回出帆
▲濟州島行 釜山發長承浦、麗水、巨文島經由
昌平丸 一月二日 釜山發
▲濟州島行 木浦發 東廻・西廻
公州丸 一月三日 木浦發
慶興丸 一月六日 木浦發
▲釜山麗水線 釜山、麗水間往復 每日一回出帆
▲木浦麗水線 釜山行麗水ニテ接續
互濟丸 一月一日 木浦發
▲多島海行 木浦發多島海各島行
慶興丸 一月一日 木浦發
▲木浦行 仁川發各地經由
全州丸 一月一日 仁川發
▲海州行 仁川海州相互ヨリ每日一回出帆
▲鎭南浦行 仁川發各港經由
晉州丸 一月二日 仁川發
▲大連、青島行 仁川發芝罘經由
江原丸 一月七日 仁川發
本社 京城南大門通(電話長一九五二・二二三二)
釜山 支店
元山 出張所
仁川 代理店
木浦 代理店
京城 取扱店

日本郵船仁川出帆
大連、秦皇島行
酒田丸 一月三日朝出帆
芝罘、天津行
相模丸 一月十三日正午出帆
高砂丸 十二月廿六日正午出帆
仁川海岸町 回漕部

汽車時間
湖南線(南行)
同(北行)
[illegible]

京城日報

通俗教育改善案（上）

京城日報

一

吾人が甞て注視し居れる臨時教育會議に於ける通俗教育改善に關する答申案は、未だ同會議の決定を經ざるも、主査委員會の成案は之を公表せられたり。之れ凡て當局に對する實施の要求にして、十一項、一項毎に理由書を附し、克く要領を摘拔して遺憾なし。本會議に於いて如何に修正せらるべきやは固より知るべからざるも、從來の例に依れば、大抵其のまゝ通過するならんと信ず。此の答申は直接に朝鮮地方とは關渉を有せずと雖も、早晩大なる影響を受くべきが故に、今日豫め之を講究し置くの必要あるべし。乃ち之を條擧し、聊か評釋を試みんとす。

二

第一項にいふ、『朝野關係各方面の聯絡を保ちて、通俗教育に關する事項を審議するため、文部省に調査會を設置する事』。其理由に曰く『通俗教育に關する事項は、固より文部省の主管に屬すと雖も、廣く學校以外に於て施設經營せらるゝものあるが故に、他の諸省並に地方團體の經營に俟つ事少しとせず、地方公共團體、其他教育界、宗教界、青年團等の如き各種の團體にも、深き關係を有せり。殊に新聞紙の如きは其關係最も廣く且大なりとす。故に通俗教育の改善を圖り、其實功を收めんには、此等朝野各方面の聯絡を有ちて、通俗教育に關する事項を審議し、社會の狀態に順應して、適切なる施設を講ずるため、文部省に調査機關を設置し、之を組織するに、各方面の人物を以てし、常に當局の諮問に答へ、又進んで意見を開陳するを得せしめ、協力一致して事に當るの要あり、是第一項の如く議決せる所以なり』と。

按ずるに此項は從來の官府萬能主義を革め、汎く各般の知識を蒐め、國民と共同して通俗教育改善の實を擧ぐるを明するものにして、時勢の進運に伴ひ當然かく爲さゞるべからざる施設なるが故に、何人と雖も之に對して異議あるべき筈なし。但し之を實行するに當り問題と爲るべきは、此調査機關を組織する人物の如何に在るべし。

三

第二項にいふ、『通俗教育に關する施設の計畫及び實行の任に當るため、文部省に主任官を置く事』。其の理由に曰く『從來通俗教育に關する事項は、文部省に於て之を管掌せりと雖も、未だ之れに關する施設の計畫、及び實行の任に當るべき主任官を置かず、是れ通俗教育に關する施設の十分ならざる所以なり。然るに通俗教育の事たる、學校教育と相俟つて、教育上最も重大の關係あるものなれば、前項の通俗教育調査機關を設くると同時に、文部省に主任官を置き、之が實行上遺憾なきを要す』と。此項は事實に於いて前項調査機關の中心となるべきものなるが故に、必然の要求たること勿論なり。但し此の主任官たるものは、眼光能く社會の裏面に透達するものなるを要するを以て、其人を得ると得ざるとに因り、効果の涙否定まるべきなり。

四

第三項にいふ、『地方團體、及び教育會、其他の公共團體の協力を促し、成るべく各地方にも通俗教育に關する主任者を置かしむる事』。其の理由に曰く『通俗教育の改善發達を圖るに於ては、地方公共團體、及び教育會、其他の公益團體の協力を促し、相提携して其の目的を達せんが爲には、各地方に通俗教育に關する主任者を置かしむるの要あり、現に若干の地方にありては、既に地方費を支出して主任者を置くものもあり、相當の効果を收めつゝあるもの如し、依つて文部省に於ても、主任官を設くると共に、各地方に於ても主任者を置き、地方公共團體、及び公益團體等の聯絡協調を有たしめ、相協力して其の効果を完からしむるの途に出でんことを要す』と。此項は中央と地方との聯絡を保ち、且つ地方の自動的施設を爲すの必要上より出でたるものにして、前二項に對する必然の歸結なりとす。

五

第四項にいふ、『通俗教育の事に當るべきものを養成するため、相當の施設を爲す事』。其の理由に曰く『前項に述たるが如く、各地方に於て通俗教育に關する主任者を設くるも、適當の人を得るにあらざれば、其の目的を達すること難し、而して通俗教育に關する事項の如き、特殊の任に當らしむべき人物は、特に之れを訓練養成するの必要あるべし、從來學校教育に從事するものに對しては、其の養成機關備はれりと雖も、通俗教育に當るべきものに對しては、其の施設無し、故に成るべく速に、之れに對する何等の施設を爲し、文部省に於て、或は民間の團體に補助して講習會を開き、講習をなさしむる等、適當の方法によりて、通俗教育に關する事に從事すべき人物を養成するの必要ありと認む』と。

理由太だ分明にして、別に評釋を添ふるの要なし。

墺匈國の政變（一）

東京支局　一記者

變に『獨逸革命の意義』と題して、記する所ありしが、これに次いで必ず研究せざるべからざるは墺匈國革命の顛末に就てゞあらねばならぬ。乃ち今より此の稿を起す所以である。抑も墺匈國の革命はこれも矢張り

▽大戰の結果　なるは勿論なるも、獨逸とは餘程其原因を異にしてゐる。唯だ其之と相似通つてゐるといふ點は、露國ボルセビズムの感染といふことであつて、乃ちレニン一派のプロパガンダによりて思想上の影響を受けたといふ點、又其のみならず世界賤民主義鼓吹の爲めに露國より入り込んでこれが煽動に從事したものゝあつたりしが如き、殊にブレスト、リトウスク講和後に於ては、露國軍内に頭發してゐたボルセビズムは早くも東部戰線に於て墺軍に感染して居つたのである。是れ獨逸と墺匈革命と相類似する主要なる素因の一であるが、全然是と其の趣を異にしてゐるものは、實に同國内

▽民族の錯雜　してゐるといふことであつて、此點は實に他に比するもの、無い位である。之れを大別すれば約十二種族程に數へ上げることが出來る。而して從來政權を把握してゐたものは獨逸族乃至マジャール族であつて、他の族は自然其配下に立ち、民族間の不平は既に古くから存して居たここで、墺匈國は實に民族問題以外には政治問題は無かつたやうな有樣である。殊にスラブ民族は墺國では人口の約五分の三、匈國では約三分の一の多數を占めてゐるが爲めに、彼等の不滿は甚だしく統治上頗る困難を感じてゐたのである。然るに露國の革命以來民族の自裁權が高唱せらるゝに至り、各民族は之を

▽絶好の機會　として、スラブ諸民族は公然墺匈國の獨立を主張し、昨年來墺國議會に於ても、ウイルソン大統領も墺匈國内の民族自治權を認めて、數次これが聲明を爲すに至つたのである。而して尙ほ其後に於てはチエックスロバック族及びユーゴースラヴ族は、聯合側よりして其獨立を認せられたるが爲め、諸民族獨立の氣運は益旺盛となり遂に其解體を見るに至つたのである。而して又一方國内の窮乏は開戰以來年を重ぬる毎に甚だしく、加ふるに獨逸の如く準備せる組織を有してゐないが爲めに、食糧其他

▽物資の分配　兎角不公平勝となり、從つて國民の不平を買ふに至つたことは當然である。殊に財政狀態の如きは紙幣亂發の結果策の施すべきものが無い位であつた。此等の結果よりして當局者及び國民は共に講和を望むやうになつたのである。斯の如く昨年以來國内の政情既に險惡となりつゝあつたに、勃牙利及び土耳古の同盟脱退に因り、巴爾幹方面に於ける友軍を失つたといふ機に乘じて、伊軍及び聯合軍が大攻擊を開始した爲め、遂に休戰を乞ふの止むなきこと、なり、國内の諸民族は此の機を逸すべからずとして各自競うて獨立を宣言するに至つたのである。而して此間に於ける中央政府の態度は如何であつたらう

列強對支那經濟發展（十四）

▽我鐵道利權（續）

長江流域に於ける英國關係の鐵道は僅數十線にして内既成に屬するもの約一千五百六十哩なるが、若し城線を合算する時は實に五千四百哩に垂んとす、從つて其投資額の如きも大約十二億七千七百餘萬圓に及び現存額實に十二億六千八百餘萬圓の巨額に達し居れるに對し我國の關係せるものを概觀するに鐵道は僅に三線にして八百哩なるが投資額に於て僅に一千九百九十餘萬圓に過ぎず懸隔の大なること歴々として看るべし唯然に注目すべきは

▲揚子江流域　に於ける我國關係の鐵道が他の列強の獲得せる鐵道利權とは著しく其性質を異にせることこれなり例へば露國の東淸鐵道、佛國の雲南鐵道、我國の南滿洲鐵道、英國の廣九鐵道、若くは獨逸の山東鐵道の如く純然たる外國租辦鐵道にあらずして單に借款鐵道なるが故に將來支那政府にして財政上の餘裕を得たる場合に於ては此借款を償還するに至るべく要するに此利權なるものは年を追うて喪失せらるべき性質のものたるを知らざるべからず彼の沙興廣東の二大鐵道の如きは未だ確定したる利權にあらずして其契約は單に草案に過ぎず又

▲滬杭甬鐵道　の如きは擔保とする所鐵道の收益にして鐵道自體にあるに非ず津浦鐵道及び京滬鐵道のごときに至りては其擔保は鹽稅乃至其の他の地方稅を以てして鐵道自體には毫も關る所なきなり殊に粤川漢鐵道に至りては英米佛との四國借款に係り所謂列國勢力の浸潤と謂はざるべからず鐵道其のものを擔保として借款を締結し營業の一部に參加し居れる利權の確實なるものを擧ぐれば僅に滬寧鐵道に於て僅に滬寧湘の二線あるのみ彼の南潯鐵道は借款としての鐵道內容を以てしたるも竟に營業權には與る所なし英國が

▲自己の勢力　範圍なりと揚言せる揚子江流域は地域頗る廣汎にして鐵道利權の如きも縱横幾多の線路を獲得して外觀極めて壯大なりと雖もこれを仔細に考察する時は其利權的色彩は年所を經るに從つて衰退しつゝあるものなり

▽英の鑛山利權

中部支那に於ける英國の鑛山利權は未だ鐵道利權の如くなる能はず其利權が果して確實なるや否やは尙不明なるも既に英國の利權として認められつゝあるものに彼の龍角山鐵鑛舍の計畫あり東方企業會社の四川省の全省に亘りて鑛山開發權を得んとしたる計畫あり又普濟公司なる稱する支那會社と合同して江北廳鑛公司なる者を設立して龍王洞の英人の一會社が四川の保富公司と

▲石炭鐵開掘　を約したることあり又英國人が個人として湖南省産出鑛物に付き二三の鑛山に對して特許の契約を爲したることあるも要するに過去英國の鑛山利權に對する巨手は揚子江の上流以下の地域に及ばざるを知るべし彼の淸朝の末期に當り四川省に東方企業會社のモルガン、リットル等が鑛山利權を獲得せんが爲に佛國との間に猛烈なる競爭を試みたることありて此競爭に打勝たる結果、英國は支那との合同契約に依り石油、石炭、鐵鑛等に關し四川全省の採掘權を得たりと稱したるも支那に

▲革命勃起　りて實施上着手するに至らず革命後英國政府は此等の英國人の既得權なりと稱し其利權を確保せんが爲に支那政府に對して屢々交渉する所ありたるも未だ解決するに至らずして歐洲大戰の勃發に會し其儘中止し居れりと雖も戰後英國の對支經營の復活して來るゝと共に更に英支間に此鑛山利權に關する再交渉を見るに至るべきは必然の勢ひなるが如し故に英國の獲得せりと云ふ鑛山利權の確定は孰れ今後に俟たざる可からず即ち龍

▽東方企業會社

東方企業會社と稱するは英人のシンヂケートにして千八百九十八年モルガンが四川省の鑛務局に於て設立したる華洋公司との間に契約を締結して四川省の全省に亘る山採掘權を獲得せんとしたるものなるが契約條項は廿四箇條より成る冒頭に於て採鑛地域を定め私人又は團體の已に有する者又會社の

▲採掘着手前　に他人の出願するものを除き四川全省と規定し採掘は鐵、石炭、石油と爲し資本金一千萬兩は內五割を支那より資し他の五割を外國人に於て出資すると定め而して着手したれば直ちに合辦の本契約を締結して開掘に着手すべき準備をへたりと云ふ其内情は未だ判からずと雖も英支人間に定めたる契約草案を觀るに全文八十條より成るが其要旨は龍角山銀鐵は民有に屬するものなれば中國政府は之を收容して國有と爲し英人と合辦を締結することを總則に規定し資本金の總額を二千萬元として支那政府は該鑛區一帶の價値を一千萬元と見做し之を出資に充つ而して英國資本團は現金一千萬元を出資すと云ふに在り

本紙定價　一箇月金五十五錢
廣告料金
發行兼編輯人　小川三之介
印刷人
發行所　京城太平通一丁目　合資會社京城日報社
電話番號

▲北京公使　に命じて極力運動せしめたる結果愈々奏功するに至り所謂四川省富源開拓の名義の下に本契約をして將來有功ならしむるに決したりと傳ふ而して四川全省の採鑛權は支那政府としても一大問題たるが故に果して英國の要求の如く承認したりや否やは疑はしきも兎も角此東方企業會社なる今後の活動は注目を要することゝ論也（某經濟通信）

▲辛亥朝時代　に於ける地方官憲の締結したるものなるが故に未だ正式に政府の承認したるものにあらずとし此交涉に應ずる能はずとて斷然之れを拒絶したるは稍事年に近きが如し然るに千九百十五年日支交涉の後、英國は此機會を逸せずして宿望を遂ぐべしと爲し

衰柳

蟾生　芙蓉

哀柳絲絲被颯秋風。詩酒十年一夢空。樓閣門前衰柳、蕭蕭衰容日日與吾同。

冬曉

學師曰、蟾生　如水
初冬早起、江原
參禪坐法筵。
嶮峭孤冷、情緒入化嶼、用淵　黍州
樹、凍猊叫寒煙。驟雪尋山寺。
嘶上方天欲曉。下界尙含眠。石馬
外。木魚呪佛前。殘鯨標老
欲上露程冒曉天。人家未起炊
煙。殿前滿地白如雪。百尺松梢
殘月懸。

新時代
言論界の權威　雜誌中の雜誌
毎月一回一日發行
新年倍大號
本號は日本の明日の文明を牛耳るもの、最も意義あり價値ある讀物なり、讀者諸君と敢て信ずる天下の正しき批判を待つ
自治生活の新精神　後藤新平
文明生活の最善形式として自治第一義を提唱せし經國の活文字
大戰の收拾方針を論じ戰局の本性を策定す
文主武從の國策と學者政治　建部博士
新文明の基礎たるべき新思想　三浦博士
世界的基礎的國家人格論と民衆的
新組織を生む母胎
科學に含まれた志向の發揮
悲痛なる日本民族自覺
植民地の諸新聞
日本道德を文相に呈す
政局大觀
時代人觀
名流詞藻
峠路　靜寂　今朝の春　元日　俳つくり
藝術界の大勢
英詩は破れたり
現代の彫刻に就て
世界劇壇の大勢
世界建築界の大勢
畫界の大勢
神秘への道
世界音樂界の大勢
日本固有の藝術及藝道
江戸時代平民藝術としての三絃樂
角力の話
歌壇の過去及將來
京阪の郷土藝術
俳句大觀
名士と謠曲
趣味と研究とを兼ね備へ民族的精神を作興する好個の讀物
己未文壇の劈頭を飾るに足る五大創作
父の爲に　凡人の一生　深淵　佐吉　神父
浄化されたる大阪朝日新聞の一大紛擾
帝都新聞界稀有の朝日新聞
各社の暗鬪明鬪と元老記者瓦解の眞相
除名問題と竊取事件の眞相
從軍記者竊取事件
東京朝日新聞の改革
地方新聞と俳壇
海外の諸雜誌
我國現代の哲學者
東京高等師範の諸教授
大藏省の人物
判檢事總まくり
安田王國の人物
奇縱の粲士語
富士製紙の人物
審査委員
帝國生命の人物
帝劇の俳優諸君
骨相より觀たる後藤男
大内山の春
漫畫
法曹界
初對面
電柱の下
兒童室
見櫓
定價　本號に限り特價六拾錢
東京市本郷區　發行所
皇國の大義に活るは吾本領　民族發展の希望に輝くは吾本領　正義人道の經緯に燃るは吾本領
時代に超越んと欲せば本誌に來れ　信仰に生んと欲せば本誌に來れ　理想に生んと欲せば本誌に來れ　道德に富んと欲せば本誌に來れ　時代に勝んと欲せば本誌に來れ

婦女寫眞
毎月一回一日發行
主宰　秋好善太郎君
大正八年一月號出來
數多き婦人雜誌の列を排して出現したる當誌は最も清新なる婦人雜誌なり、裝紙の優美、口繪の婚麗、光澤紙を用ゐたる三十餘頁の寫眞の壯美なる、其内容が如何に從來の美文字を並べたるか、閉卷先づ其淸新の氣分に撲たれむ、左に内容の一端を示す
寫眞
朝の鴨雪　皇運無窮　皇家の榮　法の道へ　ダンクを御覽遊ばさる、各姫宮　綠の若松　花の春（名流三夫人）　福壽草（御令嬢）　正月の色々　新春の祝ぎ　福は内へ（令嬢令息）　姿の喜び　小笠原伯邸の野外劇　三角夫人　帝劇女優　女の職業　お料理　美容術　其他數十葉
表紙「小松引き」（美麗優雅なる三色版）
口繪「早咲」（一頁大オフセット）玉榮女史
發刊の辭　秋好善太郎
戰後は本婦人の覺悟　宮田修
理想の家庭に於ける新渡戸博士
原敬氏の父母　多嘉學人
私の家庭　戸板せき子
小說　少女の祕密　和田和村
牛乳が背後のお口に入る迄　山口
私の方で行て居る吉凶の式梅園
寫眞　贅澤して樂しむより　生きた仕事　安井哲子
妹を殺さんとした姉の苦衷　猪股
諸姉は先眼覺めよ　主幹牛島一水
婦人へ手古摺らした女　倉田
小說　青き影　長田幹彥
女は何故働かねばならぬか　知田
一月の挿花　兒島晩翠
物語に因んだ俳諧　山谷しづ女
女は德義が第一　三角錫子
化粧にも考へよ　遊小口みち子
家庭に適する物語　小菊の香　尾島菊子
花光（短歌）　田上翠風　千葉武郎
活動寫眞と兒童と婦人　丸山鶴吉
新らしい足袋の縫方　大妻こたか
懸賞募集　其他記事寫眞滿載
口繪「早咲」（一頁大オフセット）玉榮女史
懸賞募集「變事に際して如何なる處置を採つた」其他
定價一部廿五錢郵稅一錢五厘
發行所　東京淀橋　株式會社東光園　電話番町八四二・七七四番　振替東京七三二四番

横山健堂著
黑頭巾　新刊
好評　六版
大聖空海
著者多年大師弘法の遺蹟を遍路周遊して材を尋ね、學者思想家宗教家藝術家並に人物を捉へ來りて著者獨特の筆致を以て書中に躍動す
文化の先驅者たる空海が靈肉上の大飛躍なる著想と犀利なる史筆と正確なる史實に基き古今の
西鄕の人格心事を描くに
定價一圓八十錢　郵稅八錢
發兌　東京日本橋區　弘學館

京城日報編纂
最新書式大全
各官廳ニ差出スベキ屆書、申請書、訴狀、願書、不動產及商業ニ關スル登記、契約、通知、催告、答書ヲ始メ、度量衡、特許、意匠、商標、實用新案、市場、水產、農林、銀行、鑛業、內地共通ノ書式テモ掲載シ一々關係法規ヲ摘記シタル詳細ナル樣式トハ官吏、法律家、實業家、敎育家其ノ他各階級ヲ通ジ何人ニモ座右ニ一本ヲ備フルニ於テハ他人ヲ煩ハサズシテ世事一般ヲ知悉シ公私ノ事務ニ付機敏ニ處理スルコトヲ得ベキ良友必携ナリ
定價金八十錢郵稅十錢
發行所　京城日報代理部
取次販賣所　△大阪屋號　△岩松堂　△日韓書房

生徒募集
大正八年四月入學セシムベキ生徒ヲ募集ス詳細ハ本月廿四日ヨリ一月九日迄ノ朝鮮新報ヲ參照セヨ
京城醫學專門學校

忌中年末年首欠禮
桃山警察署　小倉泰治

平壤京谷商店製
耐火煉瓦販賣
京城古市町　吉米地商店
電話九四一、三〇八番　振替京城五三番

◇帝國議會開院式

第四十一回帝國議會開院式は廿七日午前十一時貴族院にて擧行されたり、聖上陛下には御風氣の爲め臨御あらせられざりしが定刻原首相以下各大臣登院午前十一時五分兩院議員は各議長に導かれ式場に着席同十一時首相は各國務大臣を随へ式場に參進玉座に向ひ最敬禮を爲し後木下內閣書記官の捧持せる勅語書を拜受し兩院議員に向ひ 陛下の御都合に依り行幸あらせられざるに就き勅命を奉じ開院式の勅語を朗讀するの光榮を辱ふすと述べ別項の優渥なる勅語を捧讀せり此間參列諸官各議員最敬禮を爲し畢つて原首相は勅語書を議長に授け議長之を捧受し同十一時十分開院式を終り原首相は直に參內勅語下賜開院式終了の御禮を奏上せり(東京特電)

勅語

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及ヒ衆議院ノ各員ニ告ク

帝國ト締盟各國トノ交際ハ倍々深厚ヲ加ヘ今次ノ戰局ハ聯盟國ノ大捷ヲ以テ終局ヲ告ケントス朕深ク之ヲ欣フ朕ハ國務大臣ニ命シテ大正八年度豫算案及ヒ各般ノ法律案ヲ帝國議會ニ提出セシム卿等克ク朕カ意ヲ體シ和衷審議以テ協贊ノ任ヲ竭サンコトヲ望ム

御名御璽

各大臣副署

◇衆議院 奉答議事

衆議院にては開院式終了後午前十一時廿分開會大岡議長より勅語奉答文起草の議事に入る旨宣し前例により議長指名にて元田、武富氏等十八名の起草委員を擧け卅分休憩に入り委員等議長室にて起案同四十分再開元田肇氏起草委員として別項の奉答文案を朗讀し滿場の賛成を求め一同敬意を表する爲め起立賛成を表し同十一時五十分散會せり衆議院は廿八日午前十時開會全院委員長常任委員長の選擧を行ふ可し(東京特電)

▽奉答文

恭シク惟ニ 陛下茲ニ第四十一回帝國議會開院ノ盛式ヲ擧ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ 臣等感激ノ至リニ勝ヘス今ヤ世界平和ノ曙光ヲ認メ帝國ノ任務倍々重キヲ加フ 臣等謹ンテ 聖旨ヲ奉體シ愼重審議 陛下ノ龍恩ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬インコトヲ期ス 衆議院議長 臣大岡育造誠恐誠惶謹ンテ奉答ス

◇政友會議員總會 院內役員決定

政友會にては廿六日午後二時半より本部に於て議員總會を開き原首相、高橋、山本、床次、中橋各大臣、元田、岡崎兩總務を始め議員百五十餘名出席、望月幹事長開會の辭を述べ大岡議長を會長に推選し中野幹事より諸般の報告あり現在議員總數百六十一名なりと報告し夫より望月幹事長は左の如く總裁指名の院內役員を報告せり

▲院內總務 小川平吉、江藤哲藏、川原茂輔、山本條次郎、小久保喜七▲院內幹事 岩崎勲、田邊熊一、前田米藏、關田豐吉、頭本元貞、河上哲太、牧山耕藏

選擧後に元田總務より各常任委員の候補者を銓衡せん事を圖りしに異議無く幹部に一任と決定し各常任委員長に就ては他黨との交涉を要すと(東京特電)

◇新政評議員會

新政會にては廿六日正午帝國ホテルに於て評議員會を開き院內外役員の指名を委託されたるに就き種々銓衡の上幹事に秋田清氏外四名理事に小川鄉太郎兒玉右二の兩氏を擧げたり(東京特電延着)

◇首相邸午餐會 政府委員招待

原首相は廿六日正午官邸に政府委員を招待し恒例により午餐會を催し原首相より帝國議會に對する一場の訓示的挨拶あり同二時散會せり(東京特電延着)

◇下賜金御沙汰

三島中洲翁經營の二松學舍改築の趣き畏くも 天聽に達し金五千圓御下賜の御沙汰ありたり(東京特電)

◇新年御講書始

天皇皇后兩陛下には一月九日午前十時波多野宮相、內山侍從武官長、大森皇后宮大夫、千種典侍其他を從へさせられ宮中鳳凰の間に出御御講書始式を行はせらるる趣き洩れ承はる(東京特電)

◇西園寺侯動靜

西園寺侯は廿八日興津に赴き靜養の豫定なり(東京特電)

◇東拓十周年記念

東拓會社十周年記念會は廿六日午後五時半より帝國ホテルに於て開催石塚總裁の挨拶に次で吉植庄一郎氏の答辭あり主客歡を盡し同八時三十分散會せり(東京特電)

◇ウ氏倫敦著期

英國首相官邸の傳ふる所に據ればウイルソン氏及び同夫人は廿七日倫敦に著し四日間滯在バッキンガム宮殿に於て英國皇帝皇后兩陛下の接待を受く可しと(倫敦電報)

◇國民議會議員選擧

伯林よりの電報に據れば勞兵會議は大多數を以て來る一月十九日國民議會議員選擧を行ふ可き事を可決したり(コペンハーゲン電報)

◇聯合軍露都占領說

聯合軍隊は近くペトログラードを占領す可しとの風說頻々たり然れども新聞は軍隊出發の確實なる事を斷言せり(倫敦電報)

◇露國前外相聲明

露國前外相ミリユコフは大破滅に瀕せる露國の爲め聯合國の干涉は絕對必要なりと聲明せり(羅馬電報)

◇派遣軍引揚時期 全部の引揚に非ず

去る廿二日の外交調査會にて西伯利問題に對する帝國の態度を決定し廿四日の閣議にて審議せる結果我軍を今後も極東方面に駐屯せしむるは他國の誤解を招くの虞あるを以て必要なき部分は引揚ぐることに決したり但し全部の引揚は過激派が再び跋扈するの虞あれば豫備兵を歸還せしむる筈にて約半數なりと歸還の時期は輸送船の都合もあれば一月に入り凱旋の筈なり(東京特電)

◇露領旅行者注意

在滿洲里佐々木副領事の報告に據れば露領に旅行せんとするものにして旅券を携帶せざるか若くば旅券に露國領事の查證無き者の入國を拒絕せらるゝ虞あれば注意を要する趣きなるに就き今後露領に旅行する者は必ず露國領事の查證ある旅券を携帶す可く右旅券は居住地に於て下附を受くるを便宜とすと(東京特電)

◇日伊航海條約

日伊通商航海條約は昨年末を以て滿了の筈なりしを本年內存續する事に取極められありたるが今回兩當局交涉の結果明年六月三十一日迄其效力を存續する事に協議成立せる旨廿六日外務省より發表せり(東京特電)

◇米價調節策決定

米價調節策として下の方法決定せり『(一)食糧品たる麥類、豆類、澱粉の輸出禁止(二)以上の雜穀類、製粉類、酒類の輸入稅を撤廢する事』尚第一の輸出制限は一兩日中に農商務省令にて發表さる可く第二の關稅撤廢は法律の變更なるが議會休會明け近きより多分緊急勅令として發布さる可し(特電)

◇呉中將北行

奉天第二十九師長呉俊陞中將は楊騎兵旅長外三名を隨へ廿五日夜奉天發北行鄭家屯に向へり(奉天特電)

◎ロ氏海軍意見 米國上院の演說

▲ロ氏の意見 米國リパブリカン黨領袖ロッヂ氏が上院に於る演說の一節は共和黨從來の態度に照して頗る注目に値するものあり即ちロッヂ氏は多數の船舶を建造する事に對しては贊成なるも千九百二十五年に於ける米國海軍計畫の如き彪大なる海軍の必要なかるべしと述べ且つ米國が從來太西洋方面の海軍に對して考慮したる所の危險は最早や削除せられ新に太平洋に對して有力なる艦隊を必要とするに至れり吾人は米國海岸を保護すべき艦隊を有する海軍を有するに至るべきを確信すと論結したるが從來海軍擴張を力說し來れる共和黨の首領より此言を聽くは意外とせられ居れりロ氏の言を解釋すれば商船を擴大すべき船舶の建造は其必要を認むるも米國の太西洋に於ける想像敵國として考慮せる獨逸海軍は處分せられたるを以て之れに備ふるの必要なきも太平洋方面に對しては有力なる艦隊を必要とすべく故に米國海岸を保護するに足るべき海軍力は之れを認むといふにあるべし

▲大海軍計畫 米國の國論がロ氏の意見に對して如何なる批評を加ふべきかは尚時日を經ざれば不明なるが千九百二十五年迄には第二次三年計畫の完成を期し英國海軍と對抗するの勢力たらしむべしとは米國多數の夙に唱道する所なれば目下議會に於て審議中の第二次海軍擴張三年計畫が全然否決せらるゝが如き事は萬無かるべしと觀測せられ居れり而もロ氏が多數の船舶建造を認むるは米國の所謂大海運計畫を認むるものにて大海運の背後には之れを保護すべき海軍力を必要としロ氏が太平洋艦隊の必要を論ぜるも又米國の船舶が太平洋方面に對しても多くべきを以て之れを擁護すべき海軍力の必要あるを說けるものとも解せらる、即ち米國の對露貿易は戰時中著しく發展し米國は對露貿易の上より太平洋岸より浦鹽、支那印度に至る極東航路を開始すべきを公表し

▲船舶院存置 船舶院は速かに之を廢すべしとの議論ある一方米國海運界の統一を計る爲めに船舶院の存置を主張するものも多く十二月六日米國大西洋岸の某市に於ける戰後改造大會議に於ては『米國船舶院管理の下に大商船の建造を繼續するを主張すること』を決議し又海軍作戰部臨時部長ラック少將は下院海軍委員會に於て證言して曰く政府は海員徒弟二萬を收容訓練すべく商船數は又次第に增加し明年(一九一九)一月一日頃には船舶院の管理の下に航走するもの七百二十九隻に上るべく千九百二十年に於ては更に千三百隻を加ふるに至るべしと是等に由つて考ふるも米國は戰後直ちに船舶院を廢止せずして尚存續せしむべしと推せられ米國海運は大西洋に於ても太平洋に於ても統一的に飛躍するに至るべきを以て之を保護すべき海軍力は益增大するの必要こそあれ制限すべしとは信ぜられざるにより米國第二次三年計畫擴張案は前途の如く議會を通過すべしと信ぜられ居れり

◎支那探鑛困難 日本と支那官憲

[illegible]業に投資せんとするを見るや支那官憲は私かに關係支那人を壓迫して之を妨害せんとする有樣なるを[illegible]曾に再び此問題の解決を圖らんと[illegible]に支那政府に抗議し居りしが未だ滿足なる結果を得ず何れ相當の機に之れは何等かの手違ひなるべしとの曖昧なる回答ありしのみにて其後なりて居れる由なるが大正二[illegible]府優先權を有する事とし外國に鐵礦を要求する場合には豫め政府の許可を得ざる可らずとなし布告[illegible]託となりしも國會解散のため自然消滅となれり元來英國のマッケー[illegible]來屢々支那政府に抗議せしが本年二月鐵礦を目的とする會社は私人經營たること又官憲及び[illegible]

◎米豆滯貨現狀 鮮鐵內三萬餘噸

滿鐵京城管理局線內に於ける米豆出廻り數量に付同局運輸課配車係り主任は曰く現在に於ける鮮鐵の滯貨數量は一日約一千七八百噸なるが各驛に對する出廻りは遂に輸送量を超過し米豆現在の滯貨量は三萬一千四五百噸を上下し居れり各驛別の滯貨左の如し

驛別	米及粳	大豆
京義線	一七二二	二二五七
京釜線	二五三二	五四六三
湖南線	三二九一	一七四〇
京元線	一六二	……
合計	一三三〇六	八四六〇

尚ほ各驛に於ける米穀の出廻り最も多き所は左の如し

驛名	滯貨噸數	驛名	滯貨噸數
慶山	九一一	平澤	四四七〇
大邱	八五八	鳥山	一一八
鳥致院	一六九五	水原	一三二六
天安	七〇三		

◎結氷期の鐵道工事

漸く結氷期に入れるが鐵道工事の近狀を聞くに咸鏡線北部乃至中部の建設は先般來全部中止し居り咸鏡線の南部たる文川輸城間も既に工事を休止せり又城津端川間の測量も到底困難となれるに付過日來整理中なりし京義線の改良工事に從事し居れり京釜線の南大門水色間の改良工事は尚ほ休止せざるも本月末を以て明春の解氷期を俟つ事となるべしと

◎石塚氏重任乎

東拓總裁石塚英藏氏は故吉原氏の後を襲けるものにて二十七日を以て任期滿了となるが東京電報は二十八日內閣に於て同氏に辭令を交附すと報じ來れるに付右によつて察するに石塚氏の重任は動かすべからざるものゝ如し尚ほ東拓は會社法の改正以來漸く活動の步を進め各方面に事業の經營を擴張し居れるに付今日總裁更迭を見るは會社のため不利なるべく石塚氏の重任は同社前途にとり慶祝して可なりとの說有力筋にあり

◎特定運賃滿了

鐵道院線內米、麥以外の穀物に對する鐵道院線內特定運賃は本月三十一日限り期間滿了し大正八年一月一日より同線內は一般運賃を適用する事となりたるに就ては滯貨滯送貨物にして本月三十一日迄に發送の見込なきものは殆ど一月一日よりは適用す可き鐵道院一般運賃に依るものなれば過般知替記事欄に十二月末日迄に發送不能と記入す可し依つて京城管理局にて廿七日迄に既に受託し引換證を交附せざるもの・運賃は其儘處理す可しとの事なれば一般に注意す可しと

◎總監部新年祝賀

一月一日憲兵隊司令部警務總監部に於ては左記の次第に依り新年祝賀式を擧行す可しと

▲參賀 午前九時より司令部在勤判任官無位無勳者の參賀、總監部在勤判任官同待遇者の無位無勳者參賀▲祝賀 午前九時五分より總監部高等官判任官及同待遇者各總代の祝賀、京畿道警務部の祝賀申報▲拜賀 午前九時十分より司令部在勤高等官、總監部在勤高等官、京畿道警務部在勤判任官、京城憲兵隊判任官、總監部判任官待遇者、憲兵隊判任待遇者、京畿道警務部判任待遇者、司令部雇員、憲兵補助員、巡查補

◎吉林督軍歸任

軍議其他用務にて北京に在りし吉林督軍は二十六日午後一時長春驛着森田領事始め日支官民多數の出迎へを受け督軍公署に入りたるが元氣旺盛なりき(長春特電)

◎體操研究會組織

總督府主催にて本年十一月十八日より六日間京城に於て開かれたる學校體操講習會々員中の在京城會員は學校體操の振興を圖るの必要を自覺し今回研究會を組織し來春より實地練習を行ふ由

◎商店決濟良好

金融緩漫各方面共好景氣の結果商店に於る決濟振の如き本年の大節季は例年に見ざる好良狀態を示し居れる由にて東亞煙草鈴木商店大日本麥酒其他各方面に關係多き大商店に就き聞くに何れも案外の好況を唱へつゝあり

◎東拓十年史

東拓にては本年創業十周年に相當するを以て東拓十年史を編纂し關係方面に配付したり

◎獨逸兩派確執 政府側幾分有利

獨逸國內の政情は政府側とスパルタクスブント派との間に益々確執をなしつゝある狀態なるが最近に於ける形勢を見るに政府側は其機關紙たるフォルウイルツ其他新聞雜誌等により自派の主義を宣傳し傍ら戰線より歸來せる兵士の懷柔に努め居るが之に對しリープクネヒト派は同黨機關紙ローテファーネに激烈なる過激主張を發表し伯林の勞兵執行委員會及勞働團を介して自派の主義を宣布し更に舊帝國議會議長フイレンバツハが議長の名を以て議會の召集を試みりとの事實を擧け之は中產階級及び保守黨等が與に暗中飛躍して之等の聯盟運動を試むるとを暴露せるものなり之等の運動は今回の革命の精神を辱ふものなりと攻擊し之等に對抗するには無產階級の獨裁官を設くる必要ありとなし居れり

▲此確執繼續中 十二月十六日より伯林普國衆議院議事堂內に開かれし全國勞兵大會は大體に於て政府側に有利なる形成を爲しつゝあるが故にリープクネヒト派の領袖は延期を欲し居る國議會召集を實現せんことに努めたるも議決せるもの過半數の狀態に在り而も尚ほリープクネヒト一派のスパルタリース團は盛んに妨害を試み議場の秩序を亂し居れり斯の如くにしてリープクネヒト派は此際極力政府者流を一蹴せんとの希望に基づき社會主義的共和國建設、エーベルト、ハーゼ等の政府顛覆、赤衛線組織の必要を呼號し

▲次で近衛師團 補充隊代表者も其運動に贊成する等頗るの政局觀測を極めつゝありたるが一方政府側は十八日に至り全國勞兵會は政體擧議の召集ある迄國民委員會なるものを組織して之に立法行政等の諸權を與ふることを決議し現政府支持の態度を明かにせり此日リープクネヒトは約八千の罷工同盟者を率ゐて議事堂前に來り示威運動を試めるが國民委員バルトは之れに對し

▲勞働者の利益 擁護の爲に最善の努力をなすべき旨を聲明せり斯る曲折中外相ゾルフ、陸相シヨイヒは遂に辭職するに至れり之を要するに現在に於ては政府側多少有利なるが如きもリープクネヒト派の活躍更に劇甚を極むるやも計り難く其結果獨逸政局の前途は尚逆睹し難きものと云ふべし

◎滿洲地誌發行

朝鮮及滿洲社にては曩に朝鮮地誌全三冊を發行せしが今回滿洲地誌上卷を發行し夫々豫約者へ配付されつゝあり該書は同社長釋尾旭邦氏の執筆編纂せしものにして此の種出版物は最も要を得たり最近の滿洲と滿洲の天然と人事とを廣く知らんとするもの・好參考料なり

◎慶南地稅成績

慶南に於ける第一期地稅徵收成績は十二月十五日調べにては例年より良好と言ふを得ざるも十五日迄に完納せしは統營郡一萬八千三百三十八圓六錢、泗川郡三萬七千八百九十六圓九十一錢居昌郡三萬六千百六十圓九十七錢にて他郡も近く完納に至るべく納期中には全部徵收を終るべし

◎久保局長歸期

東上中の京管局長久保要藏氏は母堂病氣既に輕快となれるも他に社用あり旁出延引せるも來る三十日頃までには歸京すべし

人事消息

▲山川良三氏(陸軍中佐)廿七日夜入京巴城館へ▲有井篤氏、成田榮一氏▲山本季之助氏▲古賀貞次郎氏▲福島正平氏 以上廿七日夕退京

鳥瞰錄

少し古い話しは古いが先日宇都宮軍司令官が水原に行つて同地の華城旅館に本田博士を會食のため招待した事がある司令官の考へでは自分も和服で寛ろぐのだから、博士も四角張つたフロックなどは止めて欲しい、ナルベク和服にお願ひし升との意味を副官から傳へさした▲定刻になると、鼻眼鏡の博士が裄丈のあはぬ着物に羽織、少しく長すぎる袴を著てやつて來た▲そして磊落な博士の事だからガラ〳〵笑ひ乍ら▲『どうです此の着物は似合ますかね』と云つておいて『實は私も九年ばかり水原にゐますが獨り身ではあるし、官舍住居の事とて夜晝なしに洋服で通してゐます▲然し今日は折角閣下から和服で來いとの仰ですから此通り借着で參りました、實は和服の持ち合せがないんですよ』で更に大笑ひ▲軍司令官も容易に聲を立て笑ふ人ではないが、此時ばかりは呵々大笑、服裝の事を通知した副官はさてはとばかり可なり擬の悪い思ひをしたとか▲何しろ博士の紋服姿は水原所か朝鮮ぢや見たものはないのであるから當夜の姿を寫眞にしておきたかつたなど・水原の一つ話になつてゐる▲胃腸炎で去年殆ど死にかゝつた木村雄次理事治つてからは非常の元氣▲本店に理事の姿が見ゆると行內の空氣が少しく變ると云ふ位兎に角その活動的態度は到る所風を生じてゐる▲病後中肉になつて以前のやうに肥らず、健康狀態は一層よくなつたとの事である

◎連絡船上陸客

二十六日午前入港新羅丸一二等客 鹽田幸次、井田孝平、賀山金[illegible]外八十二名[illegible]井上なつ、岡岸男、中野龍一[illegible]一年井昌[illegible]岡むめ、岡みね[illegible]

出たり 人情倶樂部 新年號

見よ見よ雜誌界の花形

女歌舞伎 前田曙山

狂蝶記(長篇小說) 佐藤紅綠

鈴鹿峠 武田鶯塘

人情小說 藝者の戀 今西芳齊

探偵奇談 風呂敷 泉斜汀

家庭小說 波の唄 春香山人

北海秘聞 蝦夷脫走 山野芋作

花柳笑話 握り拳 伊藤みはる

芝居見た儘 天保夢物語 阿部豐後

人情小說 はぐれ鳥 平井晩村

春日矢留家の孫姫操子と其表裏の男子嬢子とを中心にして男爵令嗣芳賀久雄との三つ巴の渦を捲いての戀の成行は如何發展するであらう

講談 劍士 戶田松太郎(切武) 神田伯山

佃の夜嵐(長講) 寶井琴窓

二人角右衛門(長講) 小金井蘆洲

消行春淡雪(長篇小說) 馬場春宵

二千歲の再會 [illegible]

福德利(落語) 金原亭馬生

素人相撲(落語) 三遊亭金馬

三派分立と寄席秘密物語 凸助子

日本娘と提飯(兒玉花外) 吉原藝者と名士の豪遊振り 花柳出入帳

抱腹絕倒オペラパック 與太倶樂部名物會長田玉先生一代記

役者縮尻帳 仙飄

身元調べ 女優か藝妓か藝妓か女優か 隱れたる箱入娘の收入は落し物ロマンス

芝居たぜり、まどろす…… 京六

戀日記 石七二

公園の衣服切り…… 小歌舞伎小品……

大懸賞 金壹百圓 進呈

誌上美人投票 新趣向の試み……さあお福さんは誰の手に落つるか誰にも出來る面白い問題

讀者文藝募集

(大號に限り一冊四十錢送料二錢)(五拾貳錢稅共一冊五拾八錢三冊三圓四錢)

東京市上野櫻木町 振替四萬十番 人情倶樂部 發行所

賞金壹等一式 懷中電燈

京城本町二丁目 川合時計店 電話一九一八 振替京城二一九一

梅 松 竹 福壽草 寒咲花木盆栽 賣出し

京城大和町警務總監部四ツ角 大館骨董店園藝部 電話一三五五番

(大正三年九月十八日第三種郵便物認可)

分て芽出たき初春を
迎へ給ふ昌徳宮の御準備
兩殿下へ歳末御祝詞を言上

歳末愈押詰つて何處の家庭でも迎春の準備に餘念なき折から分けても芽出度き春を迎へさせらるべき昌徳宮の歳末如何にと承はるに李王、同妃兩殿下共御機嫌愈よ麗しく近侍の者に對して何異こなく御指圖あり既に迎春の御準備も概略整ひ廿七日は敦化門その他の松飾りさへ濟ませられ清々しき盛砂に青竹の色添へて宮裡早くもお正月氣分漂ふを見る、二十八日は御用納め、李王職々員は恒例によりこの日午後二時全部仁政殿東行閣に參集先づ高等官一同より閔長官へ歳末御祝詞言上方を請ひ次いで判任官以下職員の祝詞あり閔長官は直ちに右の趣き宮内大臣へ傳達方總督へ申請する筈なるが一方李王、同妃兩殿下には午後二時過ぎ宣政殿へ御成りあり同三十分より長官、次官、御附武官二時四十分より其他の高等官三時より御親戚貴族等への順序に夫々謁を賜ひ御祝詞を受けさせらる・筈右終つて長官は一同を代表し東京なる王世子殿下へ電報を以て歳末御祝詞を傳達する筈なるがこの日は徳壽宮に於ても同樣の御儀あり是にて兩宮共歳末の行事を終らせられ最も御心安く御越年芽出度く新春を迎へ給ふなりき

新年を迎へる囚徒
‖西大門監獄に五千人‖
唯月日が經つて行く事は彼等にとつて唯一慰安である

◇二日までは請書や手紙を書く事も許される

新年を迎ふべく世間は慌たゞしい空氣の中に騒いで居るが、囚徒の生活ばかりは全く別世界である、記者は一日西大門監獄を訪れて見た、囚徒自身が築き上げたと云ふ高い煉瓦塀を繞らした

▼獄舎の　周圍は灰色の景色に包まれ、畑の耕作を強ひられて居る囚徒や、餌を漁つて居る烏の群を見ただけでも哀傷の感を喚ばれる。現在同監獄には各國人を合せて千八百二十七人の囚徒が居る、其中で百二十二人だけは内鮮人以外の外國人である、是等の囚徒は

▼新年を　眼前に控へ乍ら平常同樣に朝は七時に起て苦役に從ひ夜は夜業をして鐵窓の下に冷やかな夢を結ばねばならぬ、世間ががどんなに變轉して居るかは一切知る由もないが、月日が經つて行くとは彼等に取つて唯一の慰安である。然し乍ら囹圄の裡に新年を迎ふる時は甚に彼等の胸には萬感交々湧くであらう。監獄の方では

▼大晦日　及び元日二日だけは囚徒に業を休ませる、そして平常は個人敎誨を行つて居るのを大晦日だけは囚徒全部を集めて敎誨を行ふ、斯んな時彼等は一樣に故郷を憶ひ妻子同胞を想ひ、罪の恐ろしさを感じて獄衣の袖を涙に濡らす者もある、元日は餅其他の正月料理が與へられ、二日までは請書なども許される、そこで彼等は自分の

▼感慨を　綴つて故郷や友人に宛た手紙なども書く斯んな風に監獄の年末と正月は簡單に而して意味深く送り迎へられる。

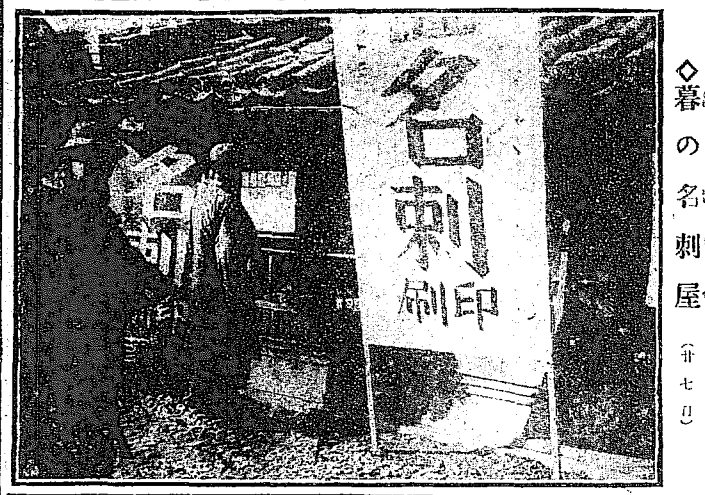
伊太利にて慘死せる
儀峨飛行中尉
部内の秀才

[illegible]に我國より伊太利に派遣された飛行將校は玉置中佐指揮の下に十一月廿七日伊太利に到着し一行は直ちに同地の陸軍飛行場に於て高等飛行術練習を開始せるが一行の中航空隊第一大隊附工兵中尉儀峨辰三氏は練習飛行中墜落し慘死せるは廿六日朝刊所報の如くなるが同中尉は航空大隊附將校第一次の卒業生にして夙に

冒險飛行家　として名あり昨年琵琶湖畔に於ける大演習にも參加して殊勳あり京都所澤間往航飛行にも成功せる記錄を有し今兄なる參謀本部附儀峨大尉と共に部内に秀才の稱あり

▽天才肌の人　右に就き要路の某氏は語る伊太利大使館駐在我武官からも當方へ其電報があつた電文簡單で詳細は分からぬが一行の伊太利到達後同地飛行學校に這入つて高等飛行術や空中戰鬪法の練習をして居つたものらしい墜落の原因は機械の故障か操縦の過失か其邊も判明せぬが生命は危篤と云ふことであるから心配で居る何れ同中尉は陞進し相當叙位叙勳の御沙汰もあらう同人は平素豪快の男で其飛行振も實に愉快であつた惜い事である

▽本人は未だ獨身　‖母堂は語る‖　牛込區喜久井町十四ノ八儀峨中尉の二氏を訪へば母堂もと子を始め家人と交々語る『昨日の午後大使館附武官から電報があつて飛行中に墜落死亡したものと判りました極めて簡單なもので何う云ふ死方をしましたか判明しませぬ九月に出發して去月二十七日伊太利へ著いたと云ふ通知は受け取りましたがその後何處に滯在して居つたものか電文の項末に大使館附武官が飛行學校所在地へ行くと附加へてあつたから飛行學校が羅馬でない事丈は確かなやうです本人は未だ獨身で六年八月中尉に任ぜられ同十二月飛行操縱術を終つたのです』(東京)



◇暮の名刺屋　(廿七日)

新築する南大門驛
鮮銀に劣らぬ大建築
京城としては大き過ぎる位に設計

明年から新築に取りかゝる南大門停車場の設計は川江管理局工務課長が話しして夕刊に載せたが何しろ建築費に九十萬圓土地買收費に百四十萬圓合計二百三十萬圓を投ずると云ふのだから素晴らしく宏壯

▽輪奐の美　を極むるものの如く設計當局たる川江課長が京城にとつては大き過ぎるだらうと云ふ位だから大抵その規模の盛んなことが知られる九十萬圓の建築費と云へば京城郵便局新營費の三十萬圓の三倍であつて又朝鮮ホテルの七十八萬圓を十二萬圓も超過してゐる、尤も此節は

▽諸物價が　暴騰してゐるので到底郵便局やホテルの出來た當時のやうな割合には行くまい、少くも京城では鮮銀の百五十萬圓に次ぐ大建築となるであらう、殊に土地の買收費その他の百四十萬圓を入れば二百三十萬圓乃ち總督府

▽新廳舍費　の三百萬圓に近いと云つて好い、新驛の入口は南大門通りよりズッと入つて東[illegible]れるやうになるさうだから南大門に相對すべく南大門通の一名物を添ゆるだらう設計の大要は夕刊の報の通りだが大體に於て

▽九鐵博多　停車場を大きくしたもので其大きくしたもの[illegible]の知れる所ではその内容は最も新式に則つてゐるやうだ

白晝強盜捕はる

◇大連の支那人殺し後報　廿六日午前[illegible]浦在金銀行大連支店前にて支那人が小刀に傷け金二千七百三十圓を奪ひて逃走せる事件の犯人は、午後四時頃滿鐵沙河口驛員内山某妻しづと同會中を逮捕せられたるが犯人は元滿鐵沙河口工建設課員にて東京下谷區谷中初音町五丁目百四十五番地奥三郎長男當年和一(三〇)と稱する者なるが和一はしづの長襦袢を盜し强奪せる現金入袋及び拳銃、小刀等を新聞の中に隱し居たりしづとの間には込入りたる事情あるも强盜罪には關係無しと(大連特電)

糞尿の始末
◇京城府持てあます
經費十六萬圓‖これが皆府民の負擔になる
確實な農業者で使ふ者は無いか……

京城府が府の内で一番厄介なものは糞尿の始末である府では毎年之の糞尿の始末に要する經費として納る經費額の三分一を支出し明大正八年度にも亦々五十餘萬圓の豫算の中から十六萬圓を之の糞尿の始末に支出する相だ現在處理未だ幼稚なる京城附近では僅に人口

△二十万人　の糞尿を使用する方法が無くて困つて居るが東京附近の農村では二百萬人の大都會を控えて居てさへ尚肥料に困つて居る内地では百姓が買ひ取つて肥料の收に出る計りか其汲取料として年に幾等と極めて多大の金を出して居る然るに京城は全く大に反對に年々莫大な金を掛けて捨てゝ居る肥料と云ふものは決して無價物でない農業經營上にも又化學工業原料としても充分な有價物である今でも南山商會で少し位は使つて呉れるが殘つた半分は遣り場がない夏ならば農家も必要を感じて買ひに來るが冬になると全く盜んでも行くものが無い府で買ひに盜みに來ない相だ府では若し確實な

△農業者　であつて一年を通じて何時にも取つて呉れて左樣して市街衞生に伴なふ方法さへ講ずるなら市の糞尿は全部呉れて遣るばかりではない買ひたいのだが現在では左樣な希望者も無い樣だと云つて居る若し左樣なれば府は毎年十六七萬圓助かる勘定で從つて府民の負擔も輕減することは願つて居るのだ

暴徒監獄を襲ふ
在監せる囚人二百名の釋放
‖オムスク監獄署の椿事‖

ホルワット將軍は廿三日オムスクより左の電報を接受せり廿二日夜オムスクより六露里を隔るクロムシノに於て暴徒の一團現はれオムスクの監獄を襲ひて衞戍兵の武裝を解除せしめ憲法制定議會の過激派黨員を始めとし約二百名の

收監者を釋放したり此騷動は數時間にして鎭定し暴徒の一部は逮捕せられ其他のものは四散せりオムスクの守備隊は斷乎たる措置を取り迅速に秩序を恢復したり(哈爾賓特電)

府廳と祝賀

京城府廳に於ては例年の通大正八年一月一日午前八時三十分より府廳樓上に於て祝賀式擧行の由尚午前九時三十分より同十時三十分に至る間に於て府民一般の拜賀を許さるべし而して服裝はフロックコート若くは紋付羽織袴とし朝鮮人にありては相當敬意を缺かざる服裝にて差支なしと

須磨子から……
‖六千五百圓を抱月氏遺族へ

二十三日は島村抱月氏の四十九日に相當する所から遺族の人々を始め須磨子並に藝術座の關係者は雜司ヶ谷の

◇墓所へ　參詣したが須磨子と島村家との間に宿題となつて居た抱月氏の遺産金に就て故人の遺族は親族會議の結果須磨子から六千五百圓を受ける事となり同日正午牛込區役所へ赴いて須磨子の手から右の金を島村家の代表者抱月氏の令弟佐々山氏が

◇受取つ　た之で抱月氏の遺れ兒が學資にも事を缺かず且つ印税も入る事こて島村家は裕福になると云ふものである藝術倶樂部の遺物一切は故人の遺志を繼いで須磨子が申受ける事となつて茲に問題は納まつた倘ほ今後の須磨子一派の興行に就ては松竹の大谷竹次郎氏が一切世話する事になつた(東京電話)

春の床懸
で眼を廻す
◇流行畫家
◇美人畫の註文が多い◇

毎年春になると美術家の中でも日本畫家は春の床懸けなどで大繁昌を呈するのであるが今年は近來稀な好景氣なので一層素晴らしい景氣である東京では小室翠雲、池上秀畝、山内多門、田中頼璋の諸氏、松岡映丘、鏑木清方、結城素明、吉川靈華などの人々何れも

◇依賴書　が山を爲し到底年内には描き切れぬ有樣、翠雲氏の如きは此の間住み慣れた新宿町から瀧野川町へ引越したが、まだ道具も運び切れぬ間に依賴者が山のやうに集まつて來るのでこう〳〵箱根の別莊に引籠つた儘年内は上京せぬ覺悟だと謂ふ、池上秀畝氏の所も素晴らしい景氣で尺八や尺五の澤山ある中に山下三郎氏から持込まれた婚禮の屏風に肝膽を碎いて居る、松岡映丘氏の所へは矢張美しい土佐繪の

◇美人畫　の依賴多く文晁だの曾我蕭白だの美しい未だ繪の具の乾き切れない作が畫室に幾枚も立かけてある、特選の萬谷龍眠氏などは半切が一枚五十圓で飛ぶ樣な有樣、新入選の大川秀蔡女史も註文が斷り切れぬので大こぼし、石渡風谷氏なぞも名を賣つた、昨年から忙しい最中に流行感冒にしてやられて目下狼狽二十二三日頃からうつせと筆を動かしてゐる、村田丹江氏の處へも尺八や尺五が澤山積まれてある、此の間にありて平崎嚴業氏のみは例の咽喉加答兒が

◇一層惡　くなつて文展の『杜甫』以來一度も筆を取らない昨今は又發熱して寢中にあるさうだ、京都側では栖鳳氏は註文をお斷りすると云ふ始末、唯鐵齋翁がボツ〳〵書いて居るが目玉の飛出る樣な高いさうな、何せよ此年末は流行畫家の相應に出ることであらう

錦嶋の病氣

◇流行性感冒に丹毒　春場所に關脇に復歸する筈の錦嶋は九州地方巡業の際博多にて流行性感冒に罹りて[illegible]後頸部に[illegible]生じたる爲め發熱激しく一時は危篤の狀態に陷りたるが漸く輕快に赴いて一時退院した故贔屓客は愁眉を開いたかと思ふ間もなく本月十四日にまた〳〵再發して入院し一旦歸京せしめた附添人の弟子を呼寄せる程の重態になつたので客の中には態々押かけて行くといふ大騷ぎであるに然るに廿二日に至りて稍輕快に赴いたこの報があつたが流行性感冒ばかりでなく丹毒が併發したのであると同院長の診斷である折角春場所を眼前に控へた今日活動も出來ざるは彼の爲めには氣の毒である

物騷な年末
◇各家庭での用心が肝要

被害は心の油斷から　物騷な年末に被害の最も多いのは空巢覘ひと詐欺とです是等は家庭の人達が一寸した心の油斷から生ずる被害で心の用心さへ確かりして居れば大丈夫な譯です

▼此年末に　家を留守にして出歩くと云ふのは空巢覘ひに盜まれる第一の原因ですが殊に小さな南京錠を表戸に掛けて置けば安心だなど思うてゐるの大間違ひです

▼つまり表　戸を締めて南京錠を掛けて置くのは『此家は留守に御座候』と云ふことを明かに證明してゐるもので却つて盜人に安心を與へます最近に捕へられた賊なども錠が掛けてあつたから全く留守と思つて盜みましたなどと平然答へてゐた位です

南京錠一　つ位は釘拔き一本で樂に開けることが出來ますから何の役にも立たない譯です、それで鍵をさへ卸して置けば安心だなど長く外出する不心得は勿論ですが尚ほ隣近所へ留守を頼んで買物に出かけるなども心に油斷を與へる因で最も宜くないことと思はれます

▼近頃の詐　欺の巧妙なのは驚くの外はありません其一として或る商家へ入り何々を買ふと十圓紙幣なり五圓紙幣なりを紙又は状袋に入れて差出し一寸此處に置物して小錢が必要であれば釣錢だけ貰ひたいと走りに行つてくるさて

▼釣錢だけ　受け取つて去る後で確かに紙幣の入つて居たと思ふ状袋なり紙包なりを開いて見ると紙幣とは思ひの外のいつの間にやら新聞の切れつ端と代りしてゐると云ふ全然手品師のやうな早業を見せられてアツと驚かされることも少くない

▼此他詐欺　の方法は種々ありますが手品を應用するやうになつては油斷も隙もありません是等は日頃から此細なことに注意すると云ふ一家の人々の訓練が大切と考へられます

◎篠崎牛助氏夫人　京城商業會議所評議員篠崎牛助氏夫人[illegible]は以てより病氣療養中の處二十七日午後四時[illegible]眠せり葬儀は二十八日午後[illegible]に於て執行す

◎名刺交換會申込數　京城府主催の名刺交換會に出席の申込を爲したるもの二十七日迄にて九百五十名に達すりと

故鈴木校長吊慰及獎學資金寄贈者名
第二十一回

一金壹圓　高等女學校生徒伊雄鋼子
一金五拾錢　龍路小學校生徒　伊藤行雄
一金參圓　黄海道殷栗公立普通學校職員　一同
一金五圓　大邱公立高等女學校長　置鹽隆親
一金參圓　公立普通學校[illegible]外職員一同
一金參圓　海州郡廳　下坂重行
一金貳圓　郵務總監部庶務課　時永浦三
一金八圓　土木局京城出張所所員　一同
一金貳圓　仁川公立[illegible]學校職員　一同
一金拾圓　仁川　吉田秀次郎
一金參圓　忠北堤川公立普通學校職員　一同
一金拾圓　馬山公立尋常高等小學校馬山公立商科高等女學校職員　一同
一金拾圓　[illegible]
一金壹圓　旭町一丁目　楠ミヨ
一金五拾錢　同　浦ノブ
一金五拾錢　同　楠正若
一金五圓　第一銀行　平岡光三郎
一金參圓　旭町一丁目九　福田源一
一金貳圓　旭町二丁目六九　平山正祥
一金貳圓　本町五丁目五二　石村義太郎
一金參圓　[illegible]米倉町官舍第三號　清水潔
一金參圓　京城通義洞　關屋忠正
一金參圓　同　小池英龍
一金[illegible]　鈴木トワ　小池フミ
一金六拾圓　朝鮮憲兵隊司令部朝鮮總督府警務總監部職員　一同
一金五圓　[illegible]公立普通學校[illegible]公立簡易農業學校職員生徒　一同
小計金百四拾八圓五拾錢
累計金四千參百八拾八圓九拾六錢五厘

最新刊
滿蒙通覽
碧巖集
荷風全集
朝鮮法規輯覽
大阪屋號　京城本町一丁目　電話[illegible]　振替京城[illegible]

鐵道拂下品販賣
冬羅紗洋服外套
毛皮胴着並防寒具
軍隊拂下品一式
特製品長トンビ大小萬套大人婦人
和洋古中衣服類各種
金子奧市商店

忌中ニ付勝手年末年始ノ禮ヲ御遠慮仕候
江華警察署　野田半一

朝鮮總督府　有敎社

頗る便利な實用全書　五冊合本完成
日用書翰文
日用辭典
式辭と挨拶
諸願屆書式
常用字引
五冊合本

歳暮割引大賣出し
特別の御愛顧を以て續々御下命を蒙ふし厚く御禮申上候
割引は定價の三歩引より五割引迄
米國キーストン エルジン時計會社 朝鮮總代理店
京城本町二丁目　村木時計店

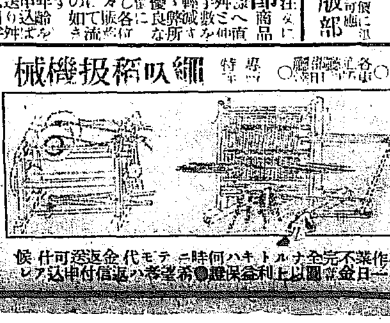
◎ミツワ家庭藥　京城　熊平支店

玄武堂

地方で十圓の品を産地で五圓にて賣升
現物價調節
注文
銘仙絣
大島絣
鹽瀬羽二重
桐生織物

寫眞　京日寫眞製版部

細吹稲扱機械
並ニ綿打機械
製造發賣元　東屋商店



作業不完全ナルトキハ何時ニテモ代金返送可仕候

栗　食用ぐり　種用ぐり　一粒選り　卸賣　平壤内田百花園

京日案內
代診看護婦　松本病院
御袴仕立專門　山崎商店
至急乳兒　遠藤
社員採用
ストーブ大見切
簿記係入用　齋藤商店
旭炭團卸小賣　一宮崎商店
砂金高價買入　七中村分析所
有好傳吉

母と子 (六十五)

北島春石作 森田久畫

革命戰 (三)

それに、近頃になつてもう一つ雅巳の心をいら／＼させる種があつた。

いくら威張つて見たとて、廿歳代は學校を這ひ出たばかりの青書生で、何一つ爲出來す事も覺束ないが、三十歳と四十歳の峠にかゝると、賢人か馬鹿でない限り、誰も凡そしてゐられなくなる年配。

『この儘朽果てゝは生れ出でた甲斐がない！俺も一廉の事業を起すべしだ。』

さう言つて、腹の蟲がチクリ／＼針を出す。戀の熱がさめると今度は事業熱――雅巳として無理のないところである。恰も五年前から歐洲の空には戰雲が漲つて戰へ切れぬほど戰爭成金が續出した。それを見ては、誰が指を啣へて引込んでゐられようか。つまらぬ會社に雇はれて、殆ど野幇間にも等しく、おろかな重役共の御機嫌をとらうよりは、鷄口となるとも牛後となるなかれ、こゝは一番發して自分の眞價を試すべき秋なりと、彼は二三の同志と語らつて資本金は微々たる二千萬には過ぎぬけれど、我等が新進氣鋭、大に擧振を見よと云はぬばかり、二年前から貿易事業を企てた。

それは重に染料と藥品の原料を取扱ふので、一時は旭日の天に冲する勢ひを示したが、未だ半年や一年は戰爭が續く見込みで、買占を斷行したところ、俄然、獨逸が白旗を掲げて聯合軍に屈服するや折角苦心慘憺して買占た在品を賣捌き盡す暇もなく、二三割の下落は手輕い方で、物品に依つては半價以下の暴落を來たした始末。出資金の多寡に依て、表面は一社員に過ぎないが、その實、專務取締の次席を占めてゐる雅巳は、講和風が吹き出した以後は、不眠不休の狀態で活動したが、滔々として頽れ落つる大瀑布が、如何にして人力を以て防ぎ止められようか。

近頃、定刻の時間に我が家へ戻れぬのは、敢て紅燈綠酒に親むのみでない、恁うした事情があればこそだ。然し、それも昨日でほゞ解決した……貿易會社はついに瓦解して、二萬五千圓の出資金の一割も、その手許に返る見込みは斷たれた。要するに、二年間の努力は水の泡となり、岸上家の財産は大方棒に振つてしまつたのである。もう今日からは會社へ出勤する必要もなくなると、雅巳は急に魂をおき忘れた人のやう、妙に腑拔けがして、何のものを縱に動かす氣にもなれなかつた。

もう十二月も十日すぎて、一日一日と歲暮に押し詰まつて行く。そして、昨日からじめ／＼と降り出した冬雨は、今朝になつて漸く霽りはしたが、打仰ぐ空に薄日もさゝず、濁つた雲が軒を壓するやうに低く垂れて、垣根の隅にほつりと一つ咲いてゐる淡紅色の山茶花がいとゞ佗しく、何となく我悲運を象るやうにも思ひなされた。

雅巳はうそ寒さうな懷手で、緣先の柱に凭れて彼の山茶花を見入つてゐると、大きな下駄を引摺つた音が垣外から蹴つて來た。よつう一惡戲やつたらしく、仕立おろしの細入が泥まみれになつてゐた。篤は緣先に佇む父の姿を見るや『お父さん……』と大急ぎで驅けて來た。

『あのね、僕、めんこを買ふんだから錢をおくんな。』

『何だ？』と、雅巳はうつかり聞き漏らしたらしく『何を買ふと言ふのだ。』

『馬鹿！』と、小憎らしく唇を突反らせて、

『めんこを買ふんだから、錢をおくれと言つたに解んねかい。』

○正月は兎角不節制勝ち……

毎年師走の二十日頃から正月の十日頃迄は醫師代比〔?〕病人の寡い季節に入る是れは病人が無いのかといふに然うでなく歲暮の忙しさと正月のお芽出度さで病院通ひを控へるのである而して松の内には誰でも不節制勝ちになるので十日十五日と日が經つに随ひ患者の數が著しく增加する歲暮から正月へかけての病氣は冬といふ氣候の支配関内にある寒冷空氣の乾燥と加之御馳走季節の必然的結果たる食物の三大原因から生ずる寒冷と乾燥は外部の皮膚と體内の粘膜を冒し皮膚の故障は皸凍傷粘膜の障害は氣管支加答兒咽喉加答兒鼻加答兒扁桃腺炎肺炎等である是等の病症を防ぐには身體の濕度を增加する鳥獸魚肉及び其の他脂肪に富んだ食物を他の季節よりも多く喰べ充分睡眠して身體を休め活氣を增し抵抗力を高め適度の運動をする外

▲衣服も相當に 落し住宅は夜間寒風が入らぬやう障子を閉め鐵瓶乃至銅壺の蓋を開けて蒸氣で乾燥を防ぐ事等である又細かに云へば入浴を勉め凍傷の出來さうな處は時々手で摩擦して血液の循環を計れ皸を防ぐにはリスリンベルツ液グリセリンの類を塗るが好い又指の切傷抔は兎角雑症に陷る憂ひがあるから負傷したら必ず二三度沃度丁幾を塗つて繃帶して置く、さすれば先づ安全であらう次に食品から來る病氣は主に消化器病である原因は此の期間は男女とも暴食する特に男子にあつては酒の飲み過ぎをする子供は蜜柑を澤山食べる爲病氣を惹き起すのだから此點を深く注意せねばならぬ

○子供の衣服 ＝ご費用調べ

△銘仙大絣一ッ身元祿袖一枚 ▲一圓四十錢銘仙大柄疋六分の五十錢無地八參崎袷裡し三尺▲五十二錢赤新モス裏八尺▲十五錢木綿わた一枚▲七十五錢色絹附紐二尺▲五十五錢仕立代▲合計八圓八十七錢

△同中裁元祿袖 八圓十五錢銘仙半反▲一圓二十錢赤モス袖廻四尺▲七十五錢新モス裏一丈一尺▲一圓二十錢頭絹代▲六十五錢仕立代▲合計十一圓九十五錢

△銘仙中裁著物 十一圓八十錢銘仙大柄疋三ツ割▲二圓二十錢洗朱織秩父袖廻四尺▲四圓八十錢紺紅絹裏一丈七尺▲一圓二十錢頭絹代▲八十錢仕立代、合計二十四圓八十錢

△メリンス中裁被布 七圓五十錢モス友禪大巾一丈▲二圓紺裏地▲四十錢木綿わた▲四十五錢飾り房紐、四十五錢仕立代▲合計十[illegible]八十錢

△赤メリンス中裁無雙袖袢 五圓七十五錢赤モス二丈七尺五寸▲六十五錢赤新モス裏一丈▲三十五錢仕立代▲合計六圓七十五錢

△赤八つ橋中裁襦袢 十一圓赤八つ橋▲二圓十錢赤メリンス裏▲二圓六十錢紅絹裏 八十五錢仕立代▲合計十六圓五十五錢

△赤八つ橋八尺帶一本 四圓四十錢赤八ッ橋八尺▲七十錢帶芯代▲二十錢吸わた▲五十五錢仕立代▲合計五圓八十五錢

△赤色綾モス袴紐下一尺七寸 四圓九十五錢綾モス袴地七尺六寸▲二十錢紐芯 七十六錢色モス腰▲六十錢仕立代▲合計六圓五十錢

△カシミヤ女學生袴(紐下二尺) 七圓五十九錢カシミヤ三巾物六尺六寸▲二十錢紐芯▲七十六錢時色モス腰裏▲八十錢仕立代▲合計九圓三十五錢

□除夜＝五の日十の日會

江戸川で同人忘年會の席を賀うての歸り殘置三癸菲に寄道して

○除夜の雪庭までの船からの綱 目池
○うなじ雪落つる除夜皆がかどれる 阿岐良
○除夜の灯の遠くみゆる兒に 鳥堂
○窓つん暗く除夜の鳥が啼いたぞ 鶴首
私の除夜の襖白の 不考郎
私に私が鮮やかで除夜のこのしき
御勅使の馬強く踏む除夜靜かな
幌馬車の目漆にも除夜靜れる

新刊紹介

▲新家庭(新年號) 目も醒めん許りの美人畫、油繪を始め全國に於ける令嬢美人の寫眞が滿載し讀物としては各方面大家の執筆に係るが人論、思想界に一大動搖を與へたる問題の婦人と其の職業、哀れな與鳥家の末路等面白く新不如歸の評ある『しぐれ唄』は益々佳境に入れり本號には此外大家の創作四篇を添へ[illegible]に花を添へた[illegible]に本誌は全體を通して少しも無駄がなく一家團欒の間に於て高らかに讀る雜誌なり(東京[illegible]公園玄文社一部八十錢)

▲全國の代表的美人 小形新演藝の新年臨時增刊なり全國に於ける一流の藝妓の寫眞を集め各地の花柳界の記事を網羅したるもの卷頭に三色版三枚を添へ寫眞の說明は特に斯道の通人たる文壇知名の人々を煩はしたり[illegible]氣の利きたる雜誌にして花柳界に於けるお正月氣分を味ふによし(東京芝公園玄文社發行一部五十錢)

▲青年界(十一月號) 十三錢東京神田區三崎町三の一共社

▲教育時論(十二月十五日號) 毎月五の日發行十二錢東京麴町區飯田町開發社

▲朝鮮鐵道青年(十二月號) 非賣品龍山鐵道協內共會

▲ローマ字(十二月號) 十二錢東京[illegible]町區有樂町一の三ローマ字ひろめ會

▲東洋皮革新誌(十二月號) 大阪東區內淡路町二の七七共社

▲婦人週報(四ノ九號) 五錢東京牛込區市ヶ谷田町一七共社

▲ジャパンタイムス(學生號) 十錢東京日比谷公園前共社

▲國技(十二月號) 二十錢東京本所區綱町一の一七相撲[illegible]社

▲帝國農會報(十二月號) 十二錢東京赤坂區溜池町一共會

▲臺灣時報(十二月號) 二十錢臺灣總督府民政部學務部內共會

▲商工(十二月號) 二十錢東京京橋區新肴町一二共社

▲人格と幸福(十二月號) 九錢京都[illegible]修養會

▲朝鮮農會報(十二月號) 二十錢[illegible]共會

▲朝鮮土木建築協會會報(十二月號) 一部二十五錢 京城長谷川町八四共會

▲熱血男兒(少年俱樂部) 少年俱樂部の新年號刊さし『熱血男兒』といふが近々發行されるさうだ 內容は熱血小年、冒險小說、探偵小說[illegible]十篇多血性少年の歡迎を受けるだらうとのこと(二十二錢、東京本郷大日本雄辯會)

▲婦女界(一家幸福號) 諸名家の[illegible]長壽の秘訣、幸福な一家[illegible]苦心成功の[illegible]の讀み物多く附錄として[illegible]用美八種を添ふ(三十錢、東京[illegible]婦女界社)

▲實業之日本(十二月十五日號) 人種及宗教的差別の撤廢に就て諸名士の有益なる說を掲げ[illegible]委員を迎ふる準備(和田社長)戰後準備[illegible]急に迫れる大問題(山脇法學博士)[illegible]用意(新渡戶博士)印度の最近實情(三吉朋十)[illegible](早川博士)[illegible](井上博士)[illegible]錦閣貿易の大發展(上田[illegible])[illegible]影響(小川[illegible])[illegible]防家の衛生(服川醫學士)[illegible]海洋の自由と日本[illegible]卓造[illegible]他五十餘[illegible](二十錢、東京[illegible]之日本社)

▲面白俱樂部(新笑ひ) 高尚なる娛樂雜誌にて[illegible]小說落語講談等を滿載すべしさ(四十錢、東京市本郷區駒込町十八講談社)

▲[illegible]に於ける[illegible]客 強制的に一箇所に整列さす事は出來ないのでせうか旅客の迷惑は一方では有りませんか(一旅客) ▲昨今は忘年會の季節にて何處でも盛んなことゝ信ずる先達て忘年會で即席の隱藝[illegible]で喝采を得た某氏があつた名前は少し憚かりさして歌を紹介する『アナ嬉しけふは○○會の忘年會、のぼるメートル快い[illegible]』(粹人) ▲[illegible](合宿生) ▲[illegible](係) ▲[illegible](係)

Scientific Research Made
MITSUWA GINSENG TABLETS.
100 tablets ¥ .50
500 tablets ¥ 2.00

This remedy feeds vitality to the strained and careworn nerves and dispels the brain fag. It is efficacious for anaemin, inanition, hysteria, hypochonderia, energy-decline and is especially good for kidney troubles. Not only it improves the muscular tone and invigorates the nerves, but it also excellent for the means of recovering vigor to persons of weak constitution who are flabby and incapable of continued exertions.

人參を科學的に研究して之を錠劑とせる
○ミツワ人參錠

定價 百錠入 金五十錢 五百錠入 金二圓 內地以外は關稅運賃を加ふ

主效 神經衰弱、ヒステリー、ヒポコンデリー、頭痛、偏頭痛、眩暈、腦貧血、腦充血、腎臟炎、貧血、老衰、榮養不良、精力減退。

本劑は鎭靜、催眠、利尿、健胃、强壯等の諸作用を具ふるものにして其醫治的効用の大要を舉ぐれば、神經衰弱、ヒステリー、ヒポコンデリー及是等の疾患に發現する諸症候、即ち精神興奮、情調異常、意志薄弱、讀書計算不能、思考力判斷力記憶力減退、睡眠不安、消化不良、心悸亢進、手足厥冷、遺精陰痿等に對して偉効を呈し、頭痛、偏頭痛、眩暈、腦貧血、腦充血の如き神經系疾患を治し得べく、之を急性並に慢性腎臟炎に適用すれば、尿異常、浮腫、其他の苦惱を除き、分娩前後及び結核、癌腫、梅毒、神經病、胃腸病、子宮病、諸種傳染病等に因る貧血並に榮養不良を回復して蒼白なりし皮膚をして强壯なる血色に變せしめ、體力を增進し、又精力減退、即ち精神の困憊並に筋肉の疲勞を癒し、頭腦を明晰にし、意氣を旺盛ならしめ、老衰の諸因を去る等の卓効を奏す。

適應諸症
一、頭が重く或は頭內が朦朧とする人
一、眼の疲れ易い人
一、逆上せて茫乎となる人
一、眠らうとしても眠れぬ人
一、勉れて困い夢を見る人
一、些細の事にも氣に懸ける人
一、何事にも怒り易い人
一、悲しい事も無いのに泣きたい人
一、精神の倦怠する人
一、何事も悲觀して厭世的になる人
一、物事を深く考へることの出來ぬ人
一、物事の理非判斷の出來ぬ人
一、物事の記憶の不良い人
一、雜念頻りに起り集注の出來ぬ人
一、神經過敏に陷つて居る人
一、血の道に罹つて居る人
一、除痰や遺精で悲觀する人
一、腎臟病に惱む人
一、產前產後又病後の衰弱を防ぎたい人
一、勉學をして直に疲れる人
一、勞働をして疲れ易い人
一、精神の疲勞を早く治したい人

(現品縮寫圖)

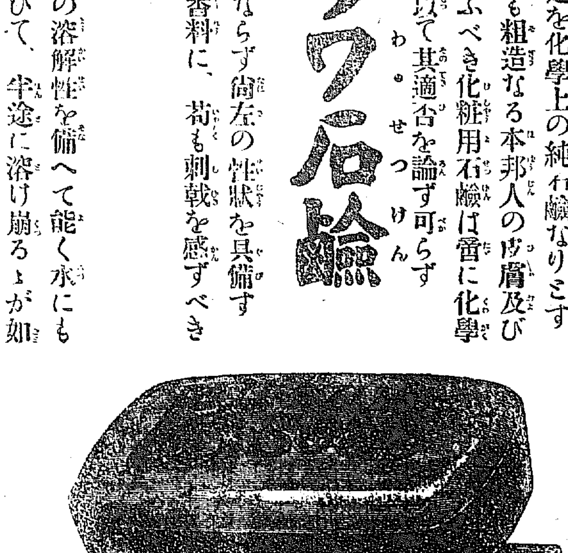
○ミツワ石鹸

純正の石鹸は亞爾箇保兒に透明に溶解し、遊離脂肪なきが故に溷濁する事なく、混合物なきが故に些の沈渣をも殘留せず、更に『フエノールフタレイン』を以て、仔細に遊離の亞爾加里を驗するも毫末の反應を呈する事なき、是を化學上の純石鹸なりとす

皮脂の分泌量多くして而かも粗造なる本邦人の皮膚及び漆黑を貴ぶ毛髮の洗滌に用ふべき化粧用石鹸は啻に化學上の純石鹸たるの故のみを以て其適否を論ず可らず

○ミツワ石鹸は化學上の純石鹸たるのみならず尙左の性狀を具備す

一、原料を精選し、脂肪に香料に、苟も刺戟を感ずべき虞あるものを用ゐず、
一、温雅の芳香を有す。
一、細き泡沫を生じ、適度の溶解性を備へて能く水にも溶解し而かも浴室に用ひて、半途に溶け崩るゝが如き憂ひなき故に、一般の家庭に於ける浴室、化粧用として衛生に適ひ、經濟に合する、理想的實用品なり


(現品縮寫圖)

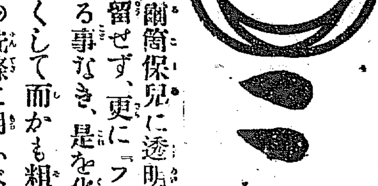
種類	大形	中形	小形	極小形	[illegible]石鹸
定價	金貳拾五錢	金拾八錢	金拾貳錢	金[illegible]錢	金[illegible]拾錢

內地以外は關稅運賃を加ふ

ミツワ家庭藥
ミツワ規那鐵葡萄酒
ミツワ人參葡萄酒
肝油ドロップス
御園化粧品

本舖 發賣元 登錄商標
東京市日本橋區橘町四丁目
藥劑、滋養品、石鹸、香粧品、小間物問屋
丸見屋商店
電信略號○ミヤ……振替口座東京七一〇 營業部電話浪花三〇四四八・四四四九・四五〇番

時計貴金屬指輪眼鏡商



地方の御注文は代金引換にて送る
京城本町二丁目
三浦天龍堂

賛化病院 京城黃金町一丁目 電話二四番
內科 小兒科 入院隨意
每日五名を限り施療す
醫學博士 古城憲治
金澤醫學士 打田義芳

百圓進呈 國三休藥 [illegible] 大阪有田ドラッグ商會

りん病 ばいどく
淋病藥主藥は治癒劑と以梅毒藥主藥は腸梅內服藥とし醫藥學上最有効と確定し等にて當病院配劑せる高貴藥なるを保證す若し前述の証言に違へる事を發見せる時は分析料百圓進呈
帝國醫科大學病院

◎あらゆる治療をあすも効なき患者に[illegible]あれ
にせ物 東京大阪各地ににせドラッグあり
大阪有田 取次所
京城南大門外停車場通 有田ドラッグ商會滿鮮本部
京城黃金町三丁目(支店)
龍山線路前(支店)
釜山大廳町二丁目(支店)
元山本町三丁目(支店)
平壤櫻町十二番地(支店)
仁川宮町二丁目(支店)

◎朝鮮のにせ物
京城、龍山、仁川等各地ににせドラッグあり瞞着せられざる樣御注意を乞ふ

請合藥有田藥店販賣禁許
全國到る所の都市朝鮮滿州南満臺灣等に支店あり
京城龍山等各地に偽物有 御注意

○滿鮮物資缺乏 [illegible]なるが併し金錢は相應に貯蓄し居るもの、如く左れば若物資[illegible]留と爲せられ居れる程なれば[illegible]以上、ムーヒン(?)發行の分一億り(敎育)

○兌換券新記錄 目ごとに增加を示し前週末二十一日の分に據れば發出は九百萬圓增[illegible]一千七百四萬[illegible]新[illegible]愈々實現すべき狀を示し[illegible]十億を超ゆべし[illegible]短期資金は[illegible]外部にして翌日[illegible]一錢七八厘、交換後[illegible]東京方面へ送金として[illegible]